

2013年5月 ことばのテーブル学習会

キーワードから考えることばの学習(9)
～文法を考える～

言語・学習指導室
葛西ことばのテーブル
三好純太

今回のキーワード

聞く力

パターン化能力

伝える場

つるつることばから ぎざぎざことばへ

気づきと知識

ドアを叩く

それぞれの日本語

文法とは何か

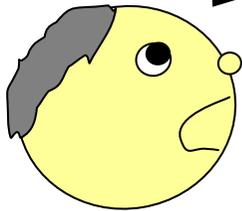
文法は

単語を文にするときのきまり

どんな決まりがあるか？

たとえば

ぞうさん りんご たべた



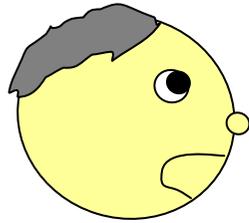
文法① 単語の順序

○ ぞう りんご たべる

主語 目的語 動詞

× たべる りんご ぞう

動詞 目的語 主語



ワンワン いた

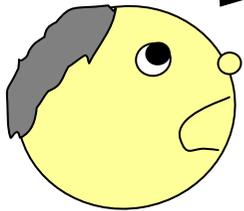
ことばをつなげて話す



文法を習得している

たとえば

ママが パパを けった



文法② 単語につくもの

ママが パパを けった

助詞

動作主

助詞

動作の
対象

助動詞

過去の
表現

日本語の文法の仕組み

単語の順序

主語 目的語 動詞

単語につくもの

助詞 が・で・に・を etc

助動詞 ~た・~ない

etc

◆ 日本語の特徴 ◆

日本語は、助詞や助動詞により
文の意味が決まる

パパを ママが けった



単語につくもの（助詞・助動詞）の文法の
重要度が高い言語、と言われている

でも…

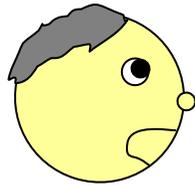
ことばの初期段階においては

語順が大切

単語の並べ方で、

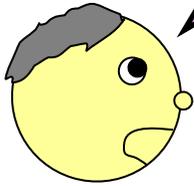
日本語の基本形式が決まる

ケーキ たべる



それにしても、助詞を誤る子どもは多いが・・・

語順を誤る子どもは少ない



のった パパ くるま

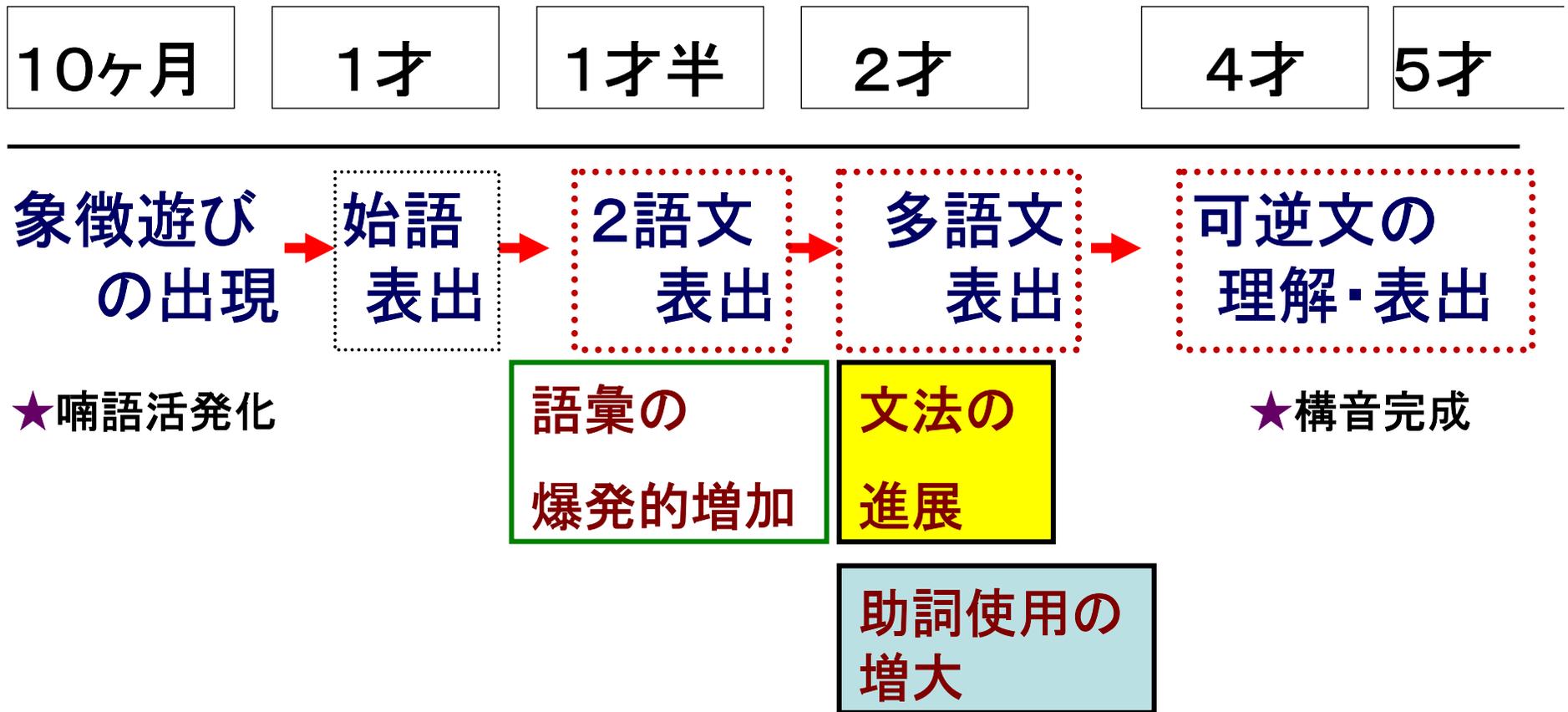
このようなことばに触れることはあるが、文としては捉えにくい

なぜ語順の誤りは少ないのだろうか？

👉 「形と意味の重ね合わせ」

文法の発達

● コミュニケーション関係の発達



● 文の理解と表出

理解

表出

1才10ヶ月	事物名称	
2才1ヶ月	2語連鎖	表出 2才3ヶ月
2才4ヶ月	3語連鎖	
4才2ヶ月	可逆文: 語順方略	表出(助詞なし) 3才1ヶ月
5才11ヶ月	可逆文: 助詞方略	表出(助詞が・を) 4才0ヶ月

<S-S法> 言語発達遅滞検査より、60%通過達成年齢

単語(1語)

事物名称

ママ

りんご



動詞

形容詞

たべる

おおきい

きる

こわい

2語連鎖



にんじん(を) きる

ママ(が) きる

3語連鎖



ママ(が) にんじん(を) きる

理解 単語さえわかれば理解可能

可逆文



動作主と対象が変わっても文が成り立つ

男の子・女の子・たたく の単語が解っても
文の意味は解らない

* 理解には文法が必要

こどもは、はじめは、可逆文を
ことばの順序(語順)で理解

4才～



男の子(が) 女の子(を) たたく

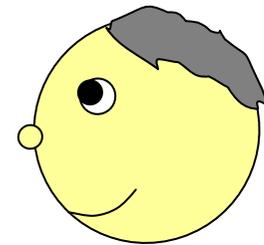
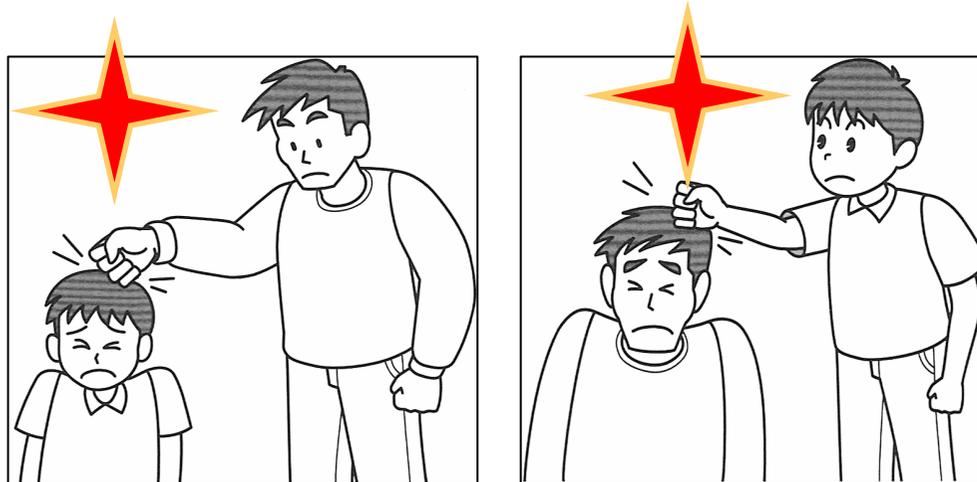
主語

目的語

* 初めに来的ことばを、主語と把握する

この段階の子どもは、

お父さんが、男の子を、叩く は、正しく選べるが



男の子を、お父さんが、叩く と、聞くと

逆の文を選んでしまう

その後、助詞で、文を理解

6才～



女の子を 男の子が たたく

目的語

主語

* 倒語文・あげもらい文・受身文・使役文
など複雑な文の理解に発展

助詞の獲得

* すべての助詞は3才頃までに初出

正用－誤用混在期



正用へ 6才頃

間違えながら身につけて行く

文法の習得

基本的に自然に覚えるもの



教室で学習するものではない

文法はどこで覚えるか



毎日のコミュニケーションの中で

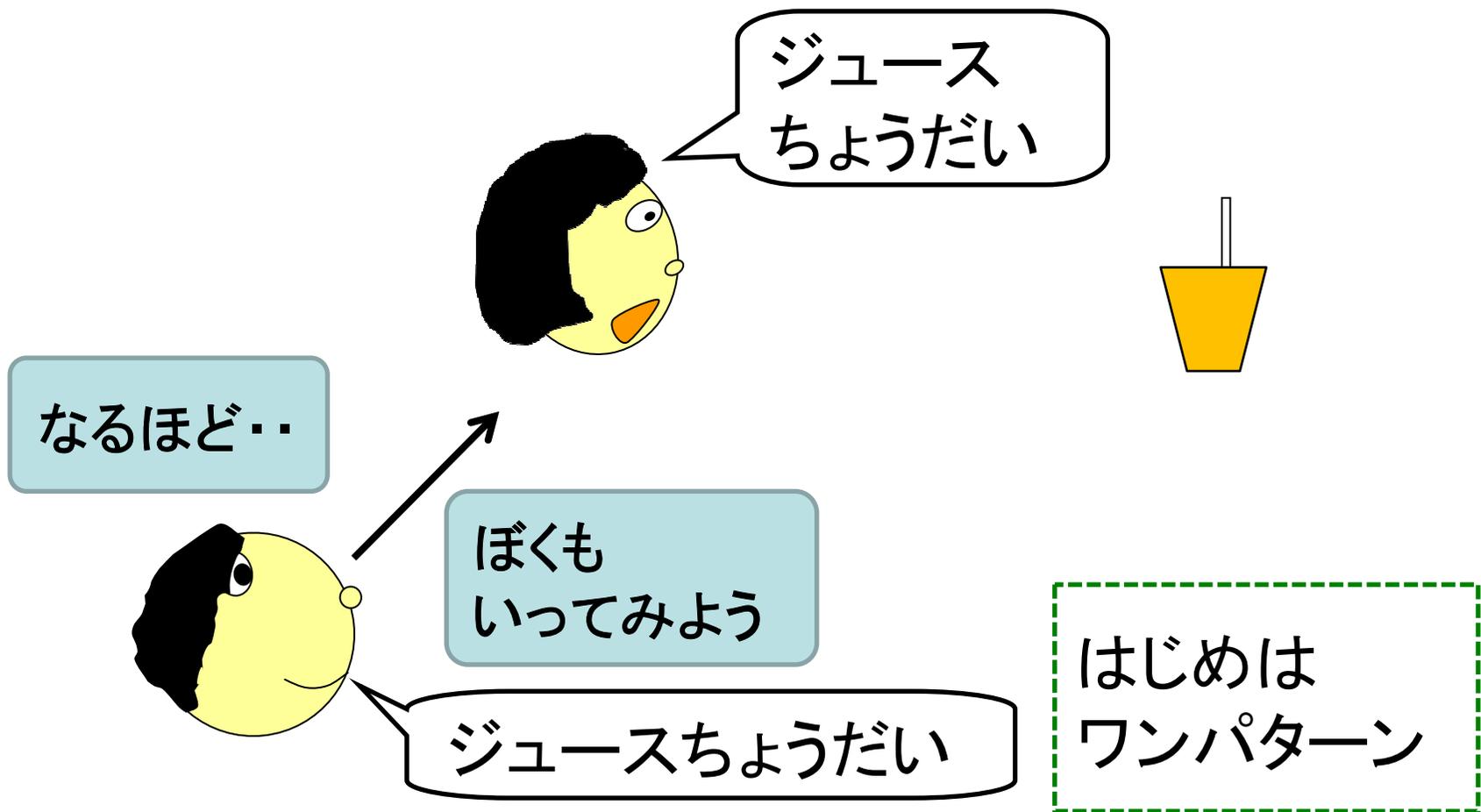
自然習得

毎日のコミュニケーションの中で
どうやって覚えるのか

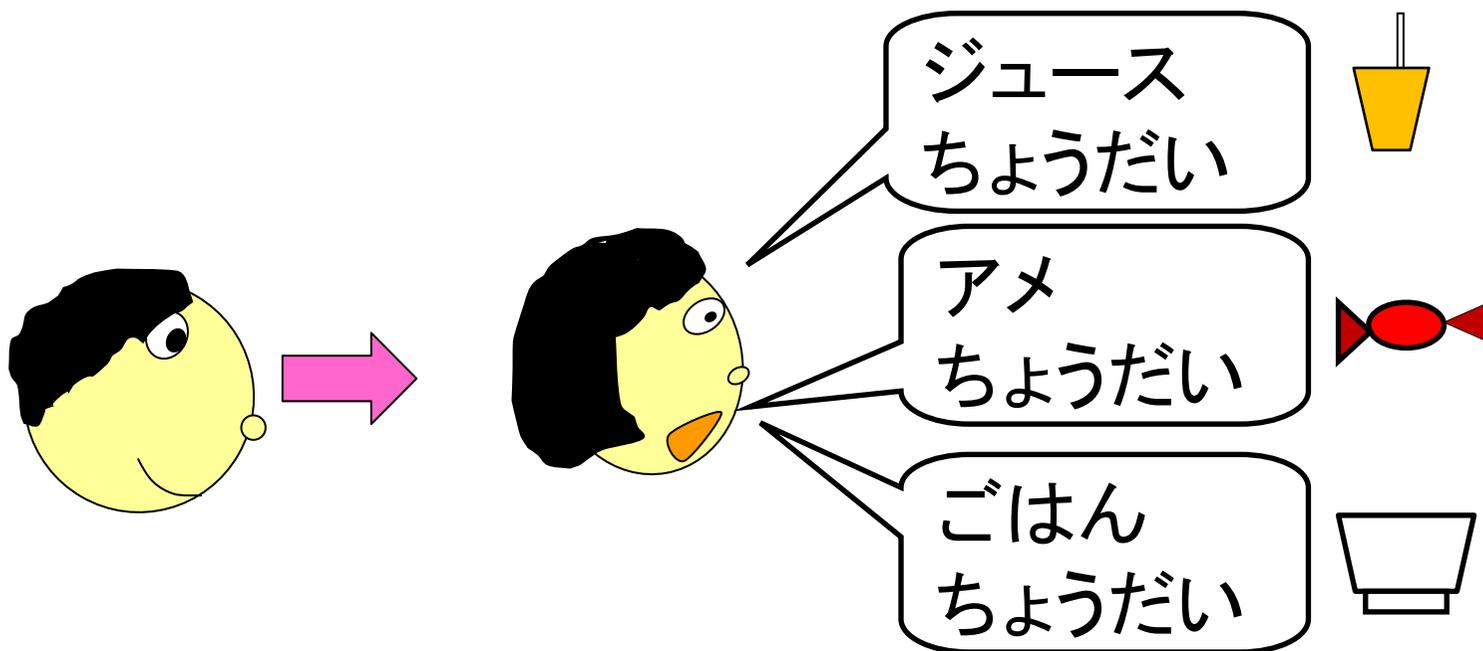


認知言語学の考えでは・・・

形と意味の重ね合わせ

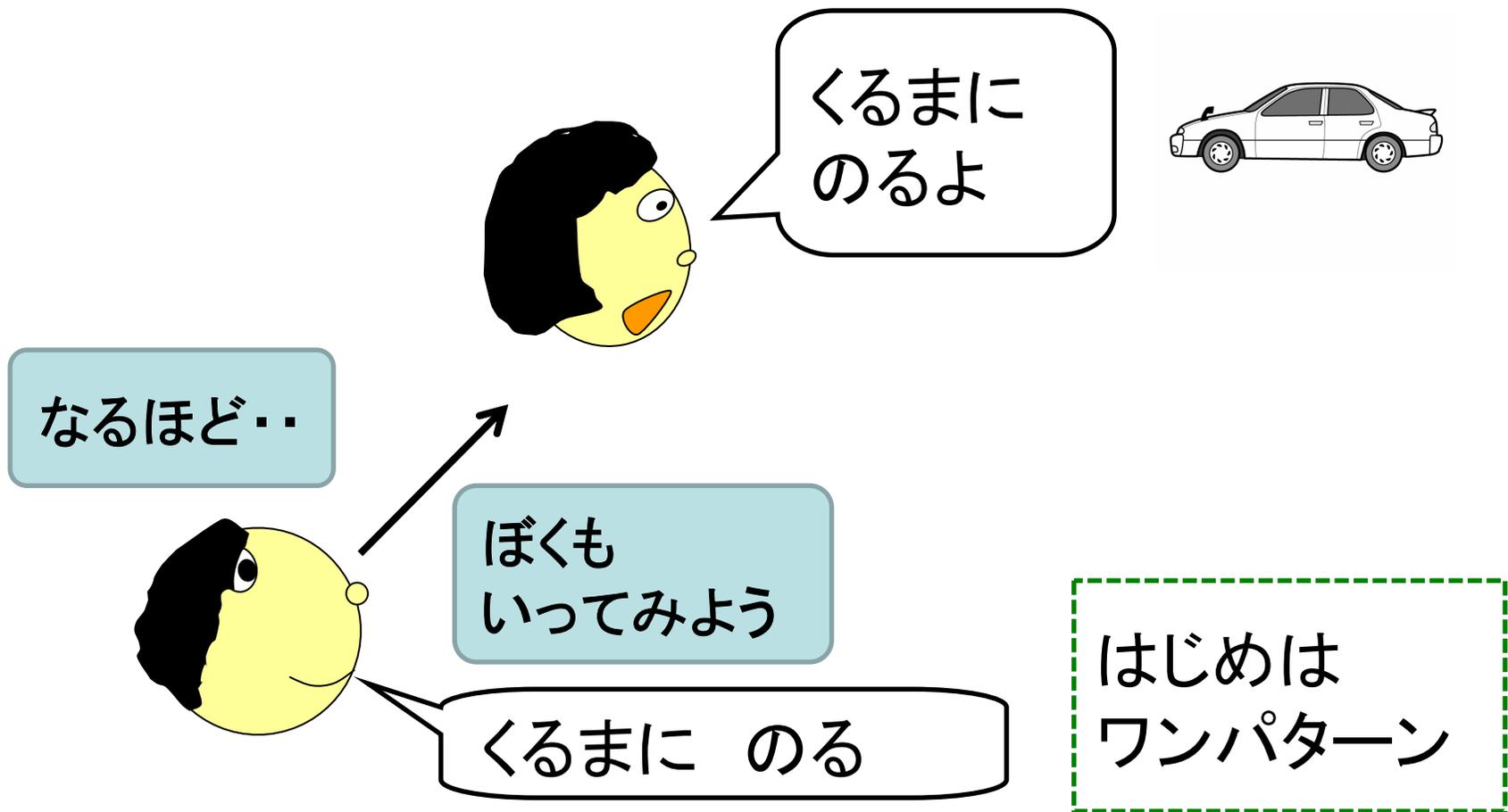


形と意味の重ね合わせ

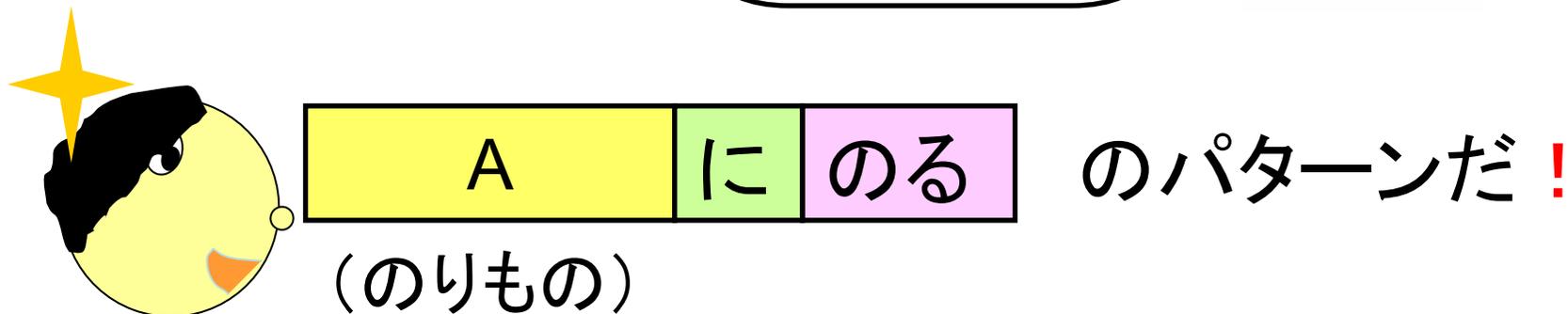
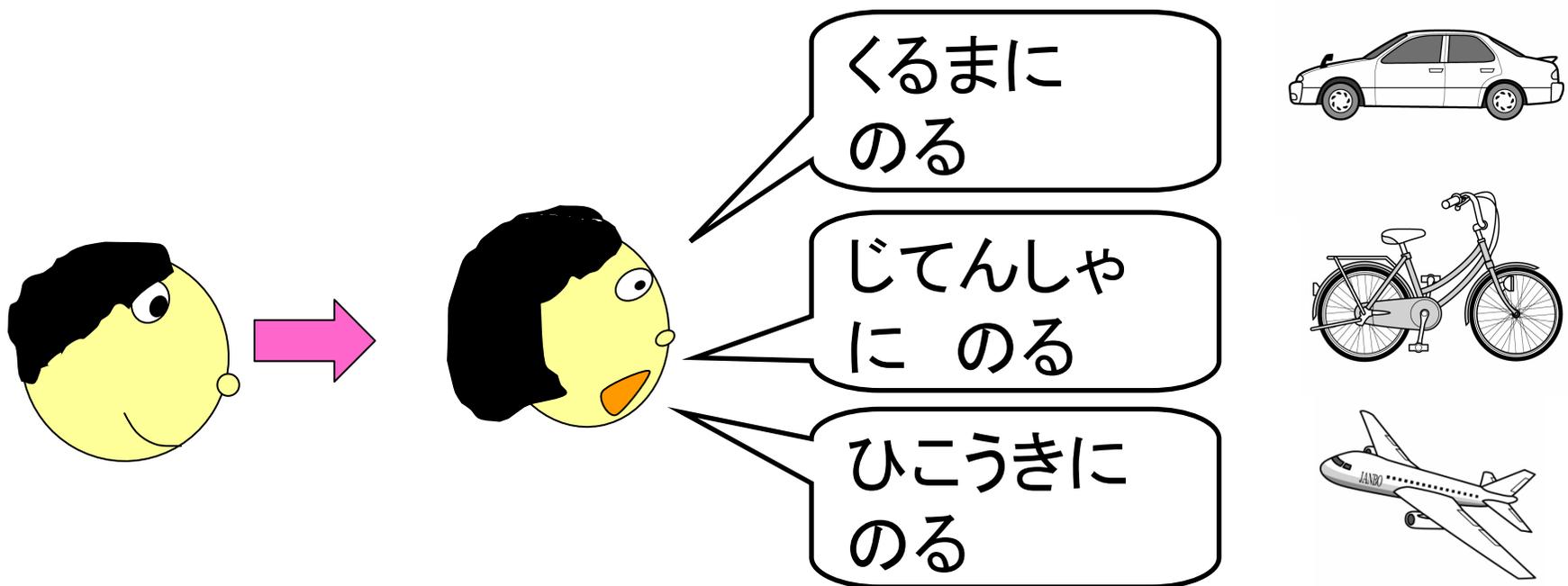


A + **ちょうだい** のパターンだ！
(ほしいもの)

形と意味の重ね合わせ



形と意味の重ね合わせ



つまり

文法の習得とは、ことばを繰り返し
返し聞く中で、パターン(規則)
を見抜き、そのパターンを身につけて
行くこと

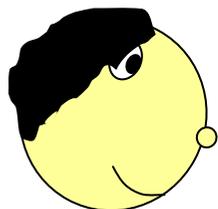


「パターン化能力」

👉「語順の誤り」

なぜ語順の誤りが少ないか

子どもは、まず、**まとまり**でことばを覚える



クルマニノル

連語

かたまりを
分解して行く

クルマ

ニ

ノル

だから語順が崩れないのではないか

！ 文法習得の手がかり

まず、子どもは、**ことばのかたまり**を
覚えなければならない

かたまりとしての **連語** を身につける

「おかしちょうだい」 「こうえんいく」

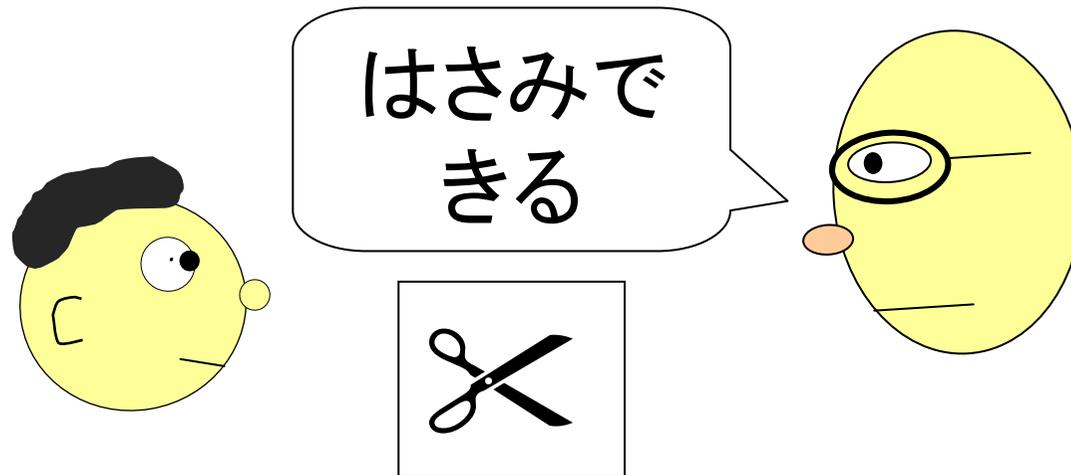
「ごはんたべる」 「ミッキーすき」

ことばの学習においても

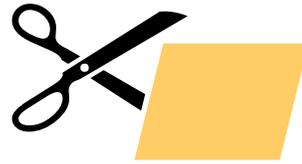
名詞や動詞は

バラバラに呈示するのではなく

連語として呈示するのが有効



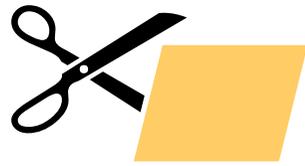
はさみできる



あるひとつの状況を表す連語が
文法の資源となる

と同時に

連語の中で、2つのことばは、ともに
支え合い、お互いをより明確にする



はさみ で きる

「はさみ」とは
切るときに使う
ものだ！

「きる」とは
はさみを使う
ときの動作だ！

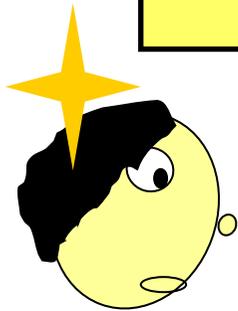
100枚プリント集

連語練習ワーク

問題例: ~に乗る

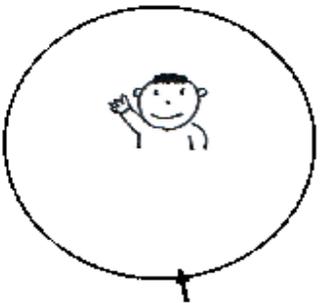
A	に	のる
---	---	----

のパターンだ！



連語練習 2

なに(に)のる? (月 日)

	ばす	に	のる
	ふね	に	のる
	ひこうき	に	のる
			

のっているものを、かいてみよう!

ことばのテーブル

それでは、子どもに対して

大人は文法を教えてもいるか？



無意識に援助している



こどもは無意識に援助されている

会話における大人の援助

★つけ加え(意味的随伴性)

★言い直し(リキャスト)

★つけ加え(意味的随伴性)

①文を拡げる

子:「ケーキ」

母:「ケーキ タベタイネー」

②文法情報を加える

子:「ヒコウキ トンデル」

母:「ヒコウキガ トンデルネー」

★言い直し(リキャスト)

文法情報の訂正

子:「ハサミヲ キッタ」

母:「ハサミデ キッタンダ」

子:「遠足、行ク」

母:「遠足、行ッタネ」

そのほかにも・・・

文法を育てる会話の工夫

豊かな抑揚・ゆっくりとしたテンポ

助詞の強調

豊かな抑揚・ゆっくりとしたテンポ

おおきな いぬ が いたんだよ

● 強調部分

● 文の仕組み

気づきを促す

助詞の強調

★助詞は認識しにくい！

単語と単語の間に埋もれてしまう



※終助詞の早期獲得
～ね／～よ

助詞の強調

自転車で スーパーに いったの

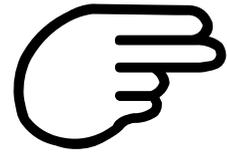
● 助詞の存在

● 文の仕組み

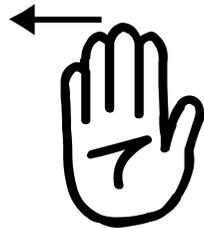
気づきを促す

助詞への気づきを高めるアイデア

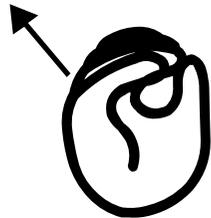
- 助詞に、指サインなどの視覚キューをつける



くるまに のる



こうえんで あそぶ



ケーキを たべる



おかあさんが はしる

文法を育てるために

日常のコミュニケーションの中での
援助を大切にしよう！

ただ、援助が効果を発揮するには、
子ども側に**準備が整っている必要**もある

 「聞く力」「ドアを叩く」

なんにしる・・・

子どもは、
日常のコミュニケーションの中で
文法を身につけて行く

とすれば・・・

ことばの指導室での時間にも

指導者と子どもとの間に

さまざまな

コミュニケーションがある

共感

雨、ふってるね

質問

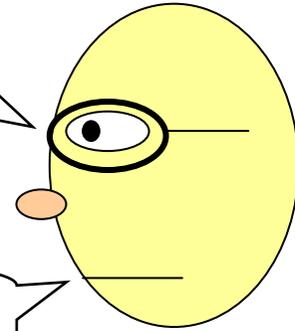
おひる、何食べた？

教示

ここに、はるんだよ

称賛

できた！すごーい！



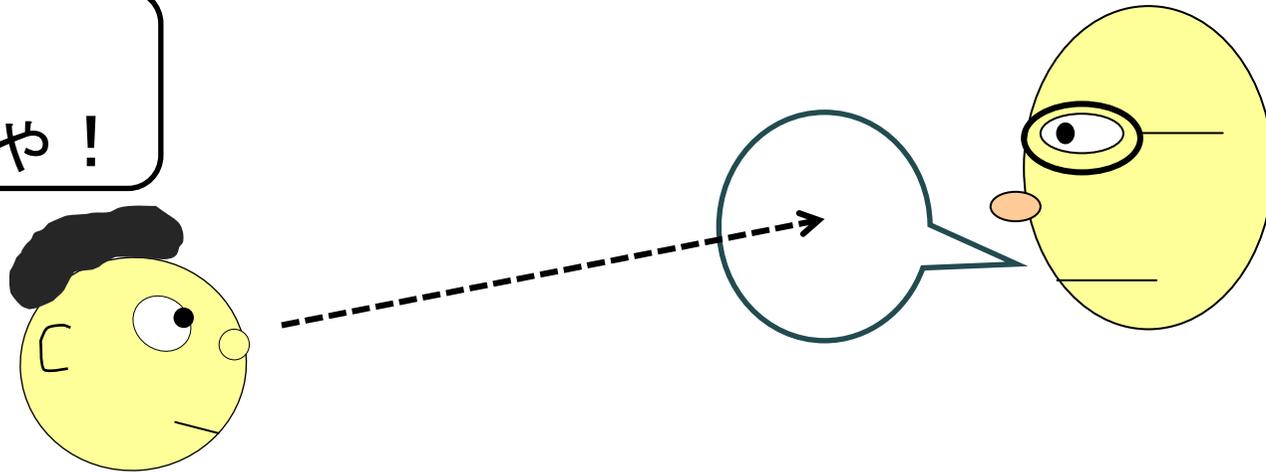
これらのコミュニケーションを、
文法習得に活用できないだろうか

学習時間のコミュニケーションは、 ことばの習得に効果的では？

なぜかというと…

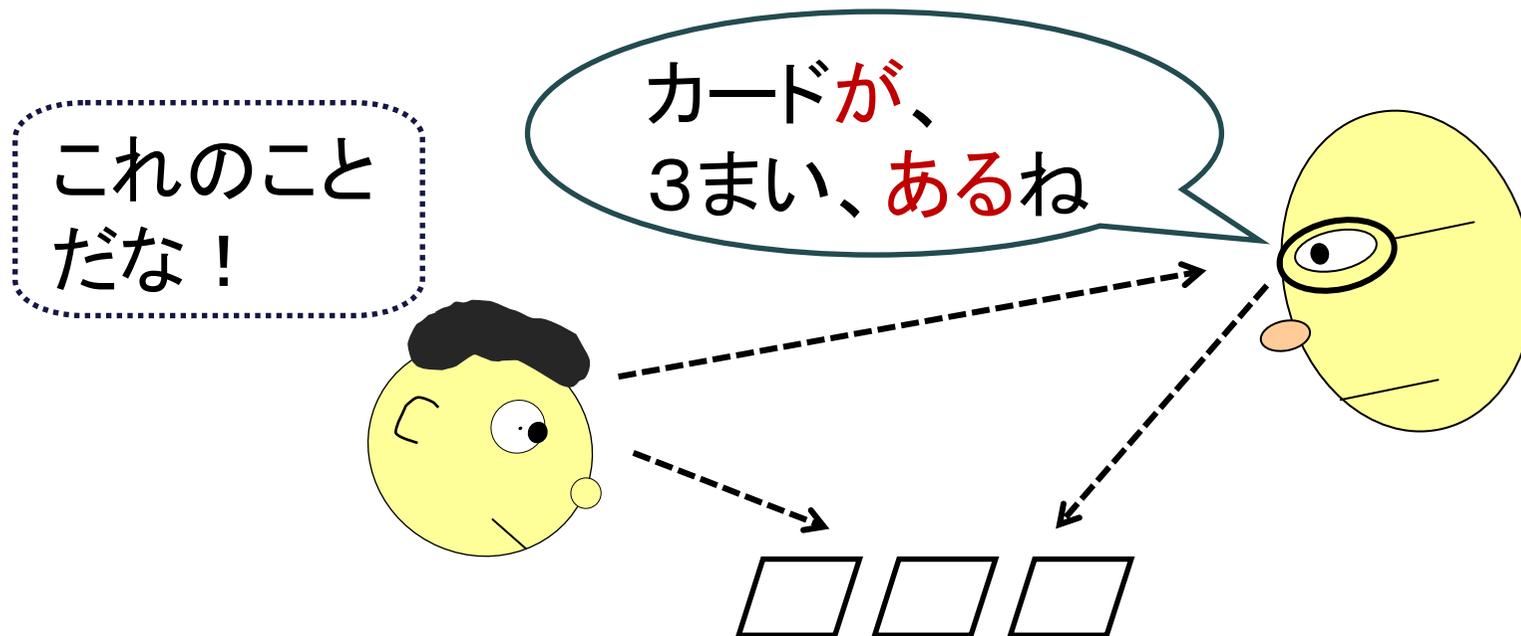
1 子どもの注目・傾聴が高い

よく、
きかなくちゃ！



それから・・・

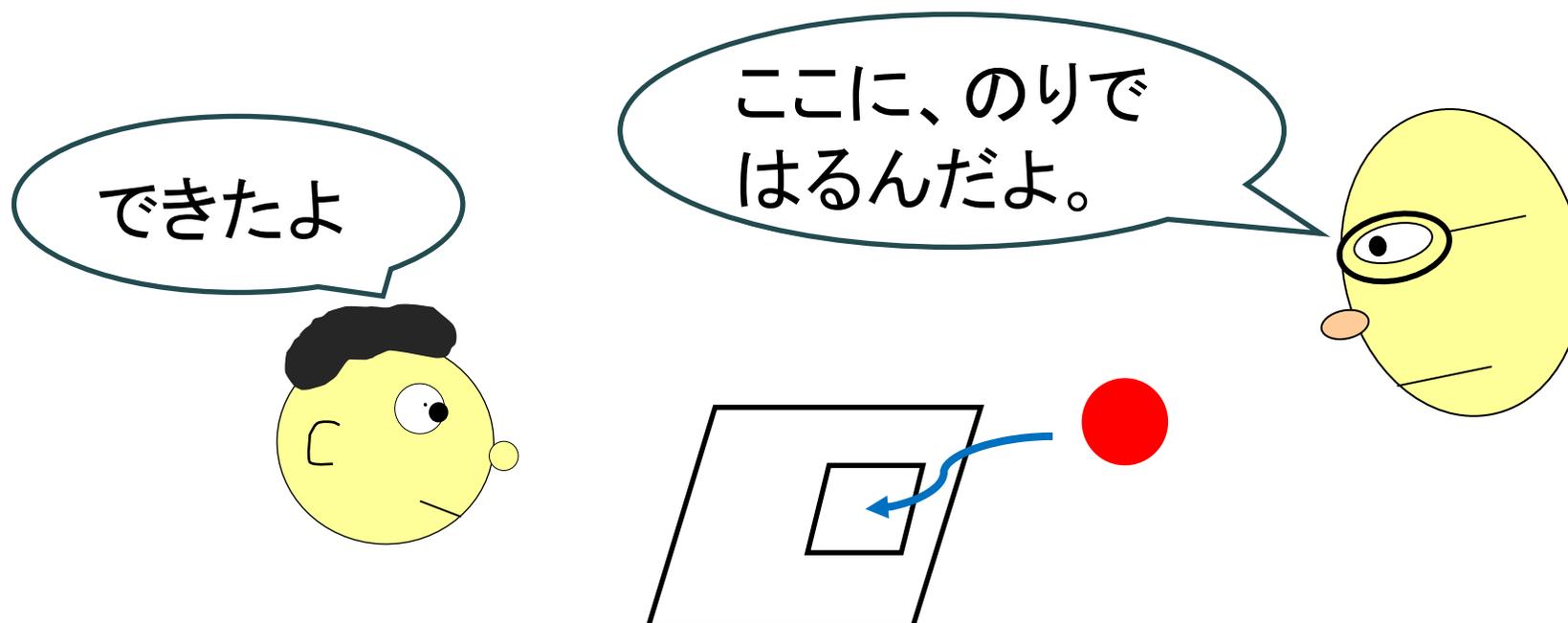
2 三項関係になっている場面が多い



さらに・・・

3 意味交渉がつねになされている

意味交渉とは、相手が知らない情報を伝達しあうこと

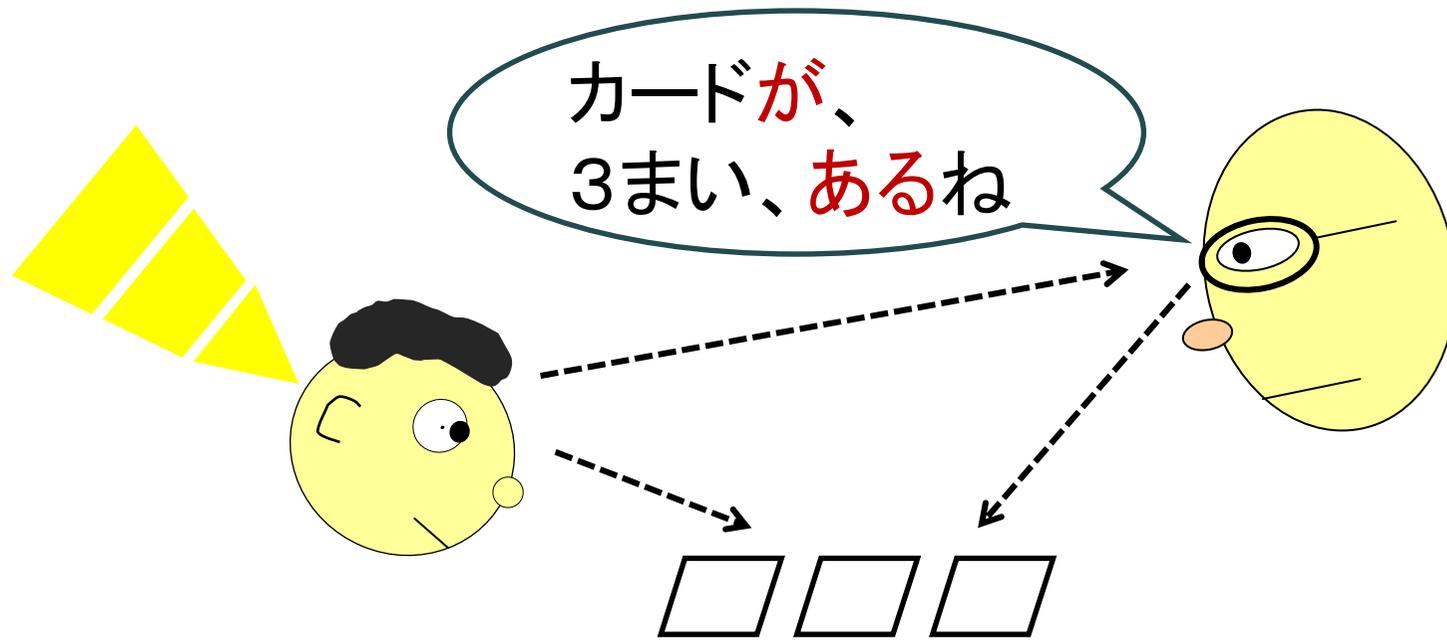


ことばの獲得には

注意と、**意図**が重要と言われる

★**注意**とは、他者のことばや視線、動作に対する注意

★**意図**とは、ことばに込められた他者の心理の把握



子どもの注目・傾聴が高く、
指導者との間に三項関係があり
意味交渉のある学習は……

きっと、効果的な言語習得の場では？

だから、
学習場面は、
学習の内容に関わらず、
その場のコミュニケーション自体が

子どもの言語習得の
豊富な資源となっている

はず・・・だが

！問題は、学習場面が充実しているか。

こどもの集中・意欲etc

ちなみに・・・

ことばの指導の中で
自分自身がどんなことばを言っているか

多いのは

質問 「なにを食べた?」「できた?」

教示 「ここに、はるんだよ」

要請 「よんでみて」

 一方的なものが多い

指導室でのコミュニケーションをより有効に、ことばの糧にするには..

こどもが、ことばの受け手だけではなく、送り手になること

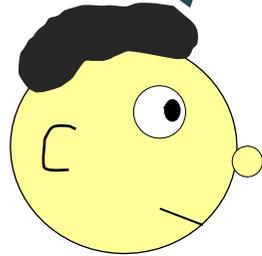
【双方向的コミュニケーション】

指導者と子どもとで、役割を交代するような形態が望ましい

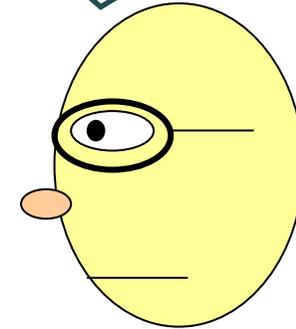
 「伝え合う場」

役割の交替

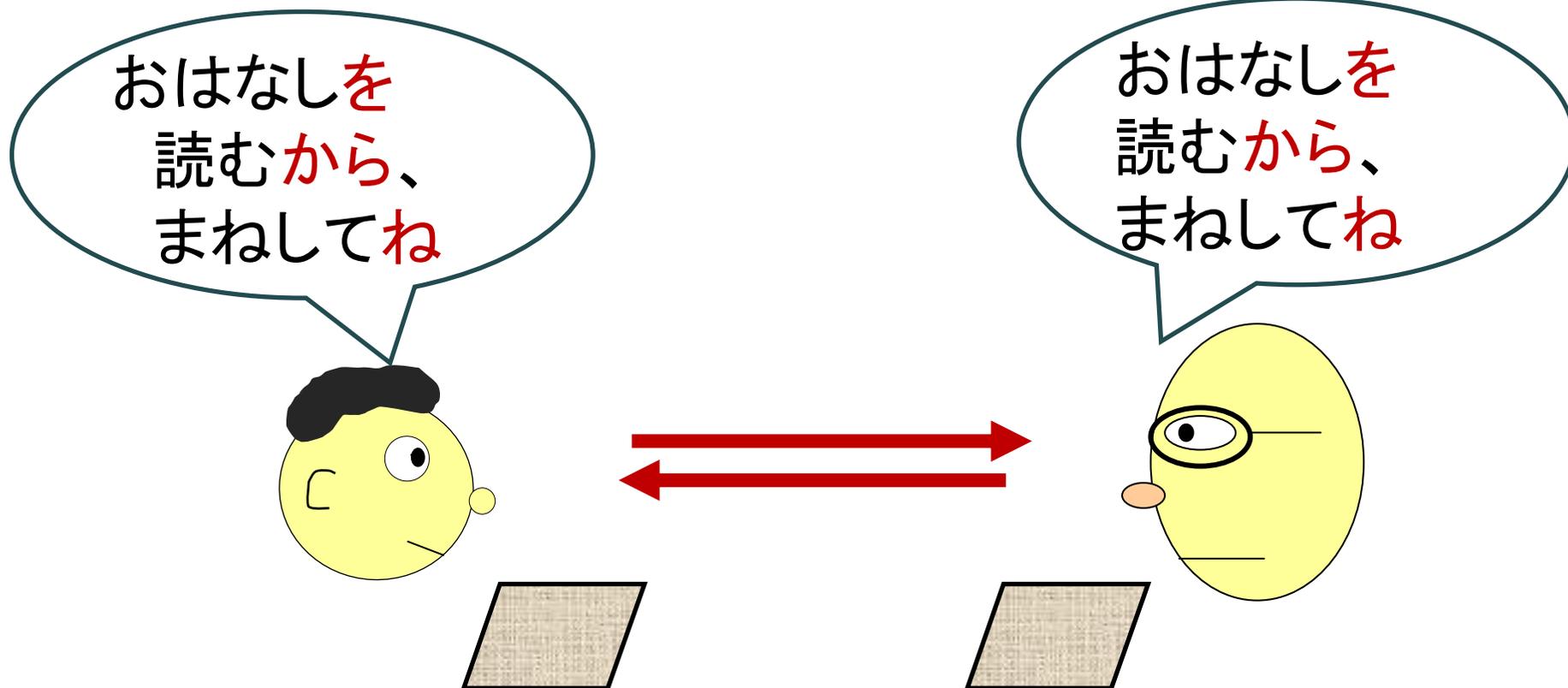
先生は
おひるごはん、
なにを食べた？



〇〇くんは
おひるごはん、
なにを食べた？



役割の交替

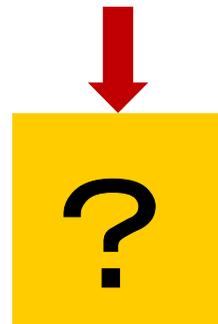


日常のコミュニケーションを、
工夫し、充実させよう！

じゃあ、勉強はどうする？

でも、自然に身につけるものを、
勉強で覚えることって、できる？

文法を勉強として
学ぶことはできるのか？



母語習得については、
まだよくわかっていない

外国語習得における研究では・・・

文法を含め、ことばは、

勉強では身につかない(日常化しない)



勉強によって、少しずつ身につく

2つの考えがあるが、一般的には、
完全なマスターは難しいが、学習により
習得は進んで行く、と考えられている

発達障害の子どもに対する ことばの指導(学習)も・・・

勉強によって、少しずつ身につく

という立場を取らなければ、行う意義がない。

★ただ、外国語習得と同様に、
その勉強には、当然、限界もある

👉「それぞれの日本語」

文法を学習する

文法の学習を行う上で 考えるべきこと

文法を身につけるには、
どんな能力や条件が必要か

文法習得に必要な能力・条件

土台となる
認知能力

土台となる
言語能力

習得を促す
意欲・動機

土台となる
認知能力

土台となる
言語能力

習得を促す
意欲・動機

土台となる 認知能力

●記憶力

●注意力

●分析力

●パターン化能力

●心理洞察能力

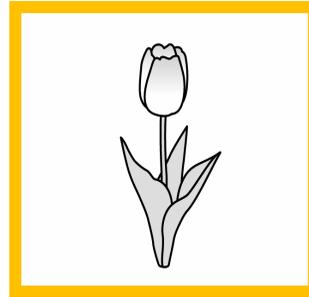
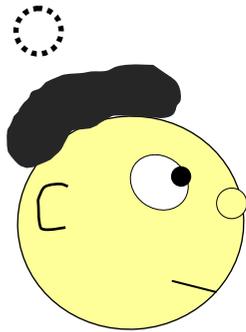
聞く力

聞く力とは

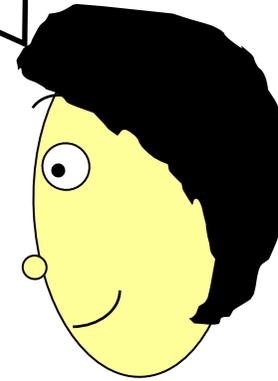
- ことばの音の記憶力
- ことばの音に対する分析力

記憶力

「おはながさいてる」
っていったな



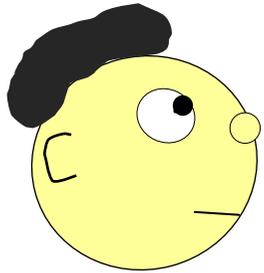
おはながさいてる



分析力

おはながさいてる

!



「おはな」と「さいてる」
の間に、「**が**」っていう
のが、あったぞ！

文法を認識して行くためには

文を記憶する力と、
文の要素を取り出せる分析力

が欠かせない

聞く力が弱い子ども

相手のことばから、
文法情報を十分に読み取れない



それと同時に・・・

自分のことばに対する認識ができない

自分のことばに対する認識ができないと・・・

はさみをきる



はさみで、きるね



言い直し

自分のことばと、相手のことばの
の違いに気がつかない

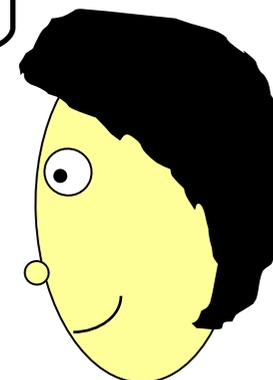
援助の効果がない

自分のことばに対する認識ができないと・・・

はさみでできる



書いてみて



いま言ったことば
なのに、書くと・・・

はさみをきる

★ 助詞(文法)に対する気づきが進まない

👉 「気づきから知識へ」

聞く力を育てるための学習課題

■ 拡大練習

■ 拡大練習

1文節ずつ、だんだん長くなる文
(拡大文)を、子どもに、復唱させる
課題

拡大練習の目的

- 1 聴覚的記憶力のトレーニング
- 2 文の意味内容をイメージする
- 3 助詞への注目・注意を促す
- 4 文が伸びて行く面白さを楽しむ

拡大練習のポイント

★ 文の読み上げに身ぶりをつける

長い文の産生の有効な援助

ぼくも言えた！



文の内容のイメージ化を助ける

拡大練習のポイント

★子どもにも、文の読み上げをさせる

自分が、いま聞いた、文を読む

ヒアリング → リーディング

音で聞いたものを、文字で確認
⇒ 文法や表記の習得に効果的

こんな文だったんだ！



実際にこの課題をやってみると・・・

長文化につれ、助詞の誤りが増える

「紙を、きった」

「はさみで、紙を、きった」

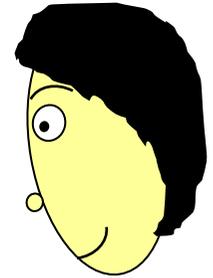
「おかあさんが、はさみで、紙が、きった」

文が長くなる → 単語間の関係複雑化

→ 助詞の誤りが増える

■ 拡大練習(表出)

だんだん伸びる文を作ってみよう!



たべた				
	たべた			
		たべた		
			たべた	
				たべた

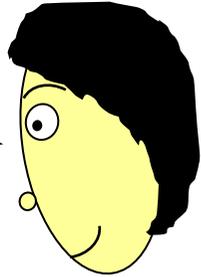


5w1Hの疑問詞に対応させて
単語の想起を促す

たべた				
りんごを	たべた			
ママが	りんごを	たべた		
			たべた	
				たべた

なにを？

だれが？



■ シャドーイング練習

■ シャドーイング練習

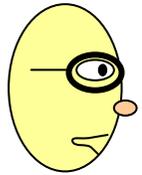
流れて来る音声を聞きながら、影のよう
にあとについて、その音声をまねな
がら、声に出して行く練習

- * 外国語学習の手法として開発
発音や聞き取り能力に効果的と言われている

シャドーイング練習の進め方

- 1 指導者が文章を読み上げる
- 2 子どもは、聞こえて来る音声の後を追って、声に出す
- 3 役割を交代して、子どもに文章を読ませて、指導者が後を追う

あるところに、「ちび」という名前の
いっぴきの黒いネコがいました。
ちびは……



あるところにちびというなまえの



あるところにちびというなまえの

シャドーイング練習の特色

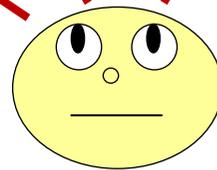
聞くことと、言うことを同時に行う



同時に、複数の事柄を考え、処理

* ワーキングメモリーの必要と活性化

作業記憶



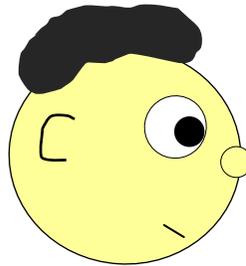
ふむふむ

ことばの運用には、 ワーキングメモリーが不可欠

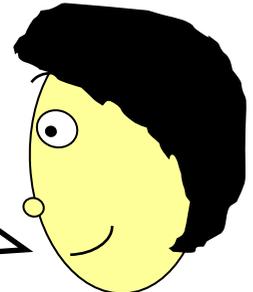
けん君って子と
あそんだ…

いま、なんて
聞かれたっけ

なんて
答えようかな



今日は
なにを
したの？



ママ、けん君
知らないな

ちゃんと、
聞いているかな

同時に複数の事柄を、考え
処理しながら会話している

実用的・運用的な
言語能力を培うためには



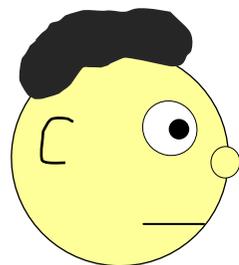
同時にいくつかの作業を
行わせるような課題が有効

聞く・意味を考える・文を組み立てる・・・
多くのことを処理しなければならない
文法習得を促すには、とくに重要

シャドーイング練習の特色

文の構造を予測しながら聞く

あげる？



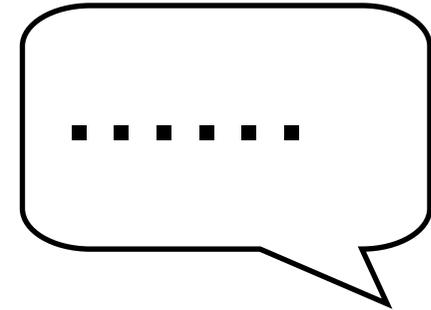
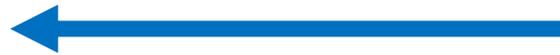
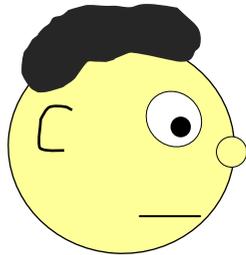
おじいさんは、
ちびに、
さかなを...

意味の予測／品詞の予測

予測文法

わたしたちは、文を一定の
予測のもとに聞いている

こうくる！



予測に求められる能力

連語の知識

文法力

文脈把握

心理洞察

と同時に・・・

予測に対する志向性が重要



注意・集中を維持しながら、
流れの先を読んで行こうとする
姿勢を育てる

パターン化能力

文法は規則

その規則を身につけるには、ことばに
潜むパターンを見抜く力がある

おかあさんが	ラーメンを	たべる
--------	-------	-----

主語

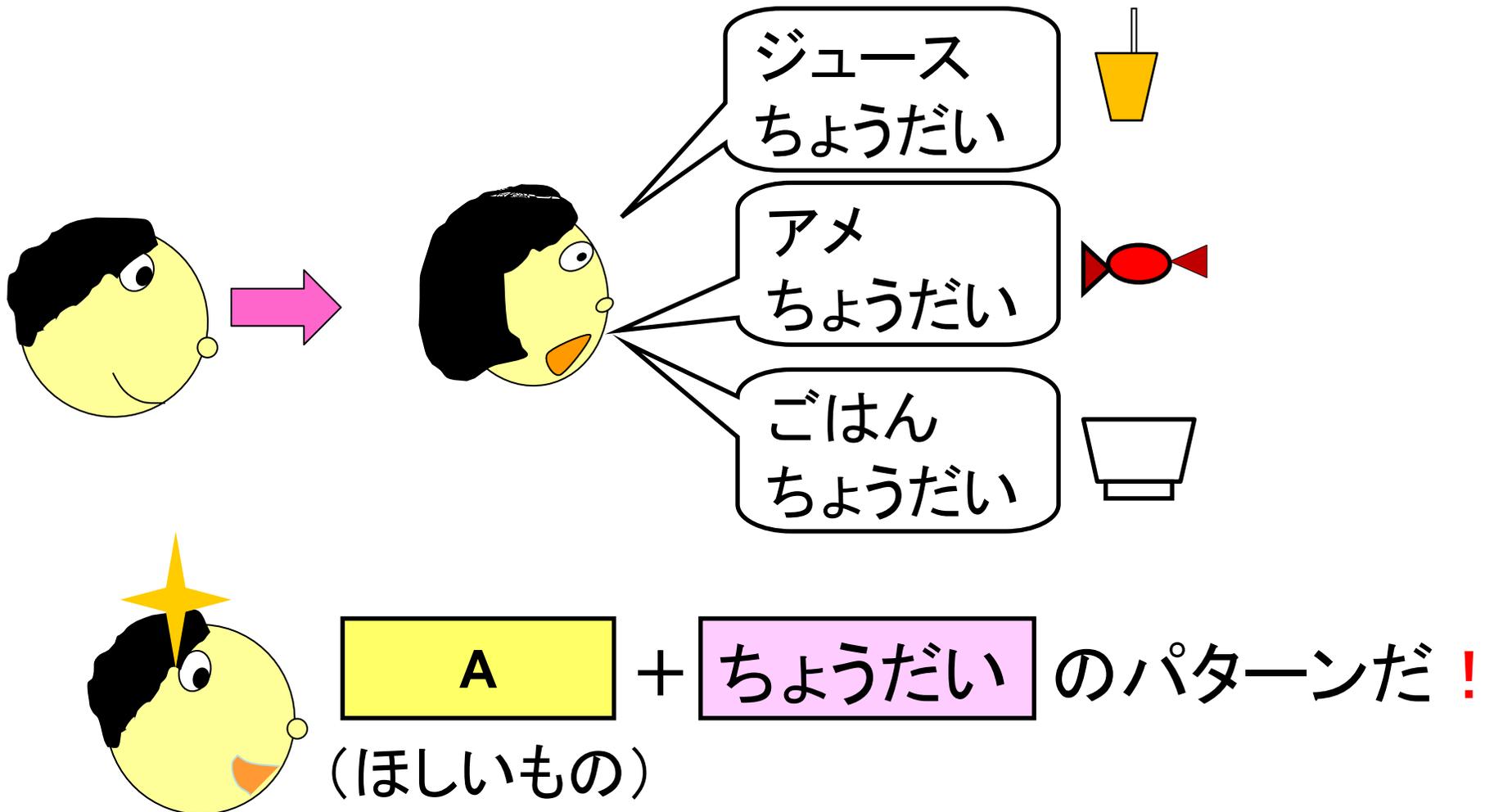
助詞

目的語

助詞

動詞

子どもは、文を聞きながら、
その構造(規則)を見抜いて行く



発達障害を持つ子ども



パターンや関係性の発見が苦手

パターンを見抜き、運用する力
=パターン化能力の練習が必要

構文のパターン・プラクティス

構文学習の絵カードなどを用いて

同じ型の文の表現を練習する

構文訓練絵カード



構文練習の2つのポイント

- 何を表現するか
- どのように表現するか

●何を表現するか

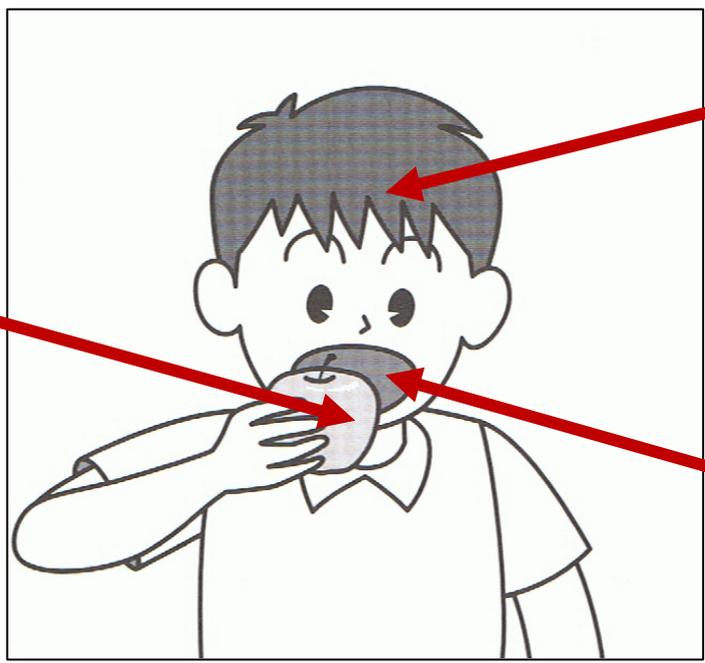
どうしてる？



- × おとこのこが、ふくを、きている
- × めと、くちと、はなが、ある

男の子が りんごを 食べてる

動作の
対象



動作主

動作

文を表現するためには、前提として
このような認識の成立が必要

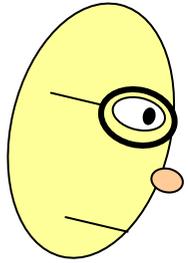
このような認識とは

状況の、どのようなことに注目して、
どのようなことを述べようとするか

すべての人間に共通する認識



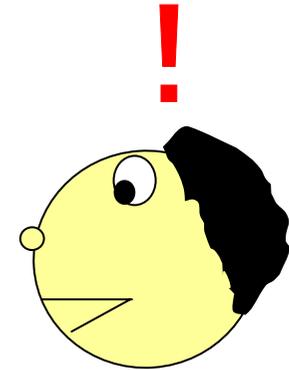
発達障害の子どもは、
この共通認識が未形成な場合がある



おとこのこが りんごを たべる



そうか！
そこに注目
するんだ！



文の提示により、共通認識を促す

●どのように表現するか



男の子が りんごを 食べる

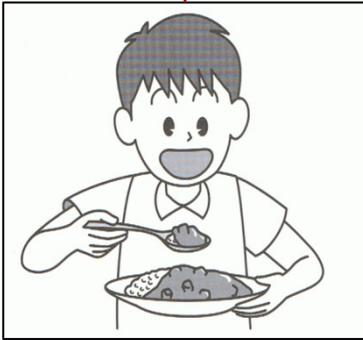


主語

目的語

動詞

男の子が りんごを 食べる



男の子が カレーを 食べる



男の子が ラーメンを 食べる

 のパターン抽出

パターンの進展



男の子が りんごを 食べる

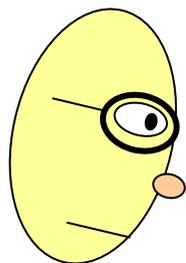


女の子が ラーメンを 食べる



女の子が さかなを 切る

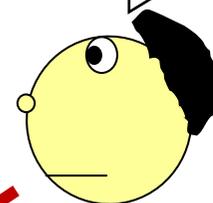
構文訓練絵カードによる理解と表出の練習



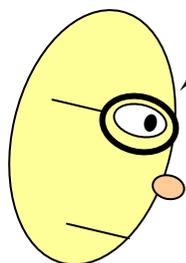
女の子が
ラーメンを
食べる



これ



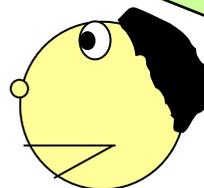
理解



これは？



男の子が
リンゴ 食べる



表出

文の形態的イメージ化

いぬよりゴリラがおおきい

くるまよりひこうきがはやい



A	より	B	が	C
---	----	---	---	---

パネル学習

□の中に ことばを入れて 文を作ろう！

より

が

100枚プリント集

さくぶんれんしゅうワーク

(くるま)が (どうろ)を (はしる)

()が ()を ()

()が ()を ()

Q:では、パターン練習で、
文が使えるようになるか？

A:ならない

文を使う目的や動機がなければ
身につくことはない

土台となる
認知能力

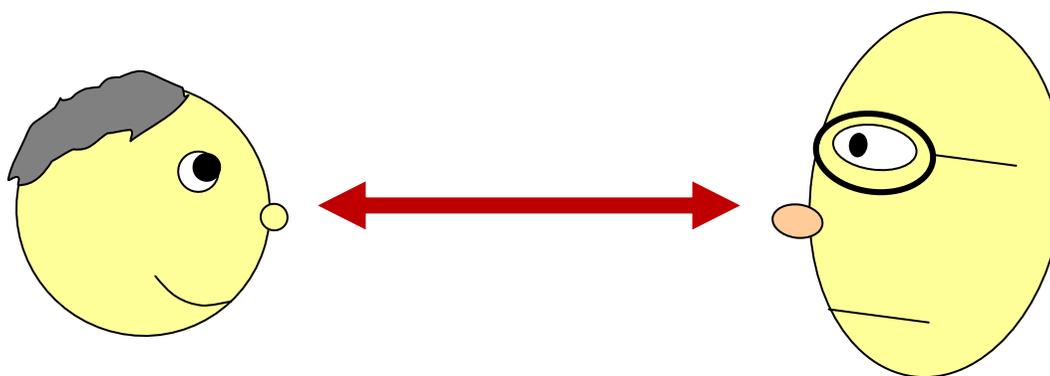
土台となる
言語能力

習得を促す
意欲・動機

伝え合う場

何かを伝えたいという、目的や動機を持って、コミュニケーションする

伝え合う場

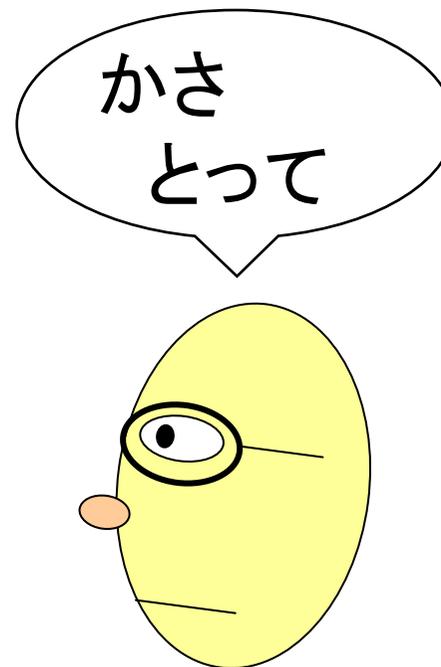
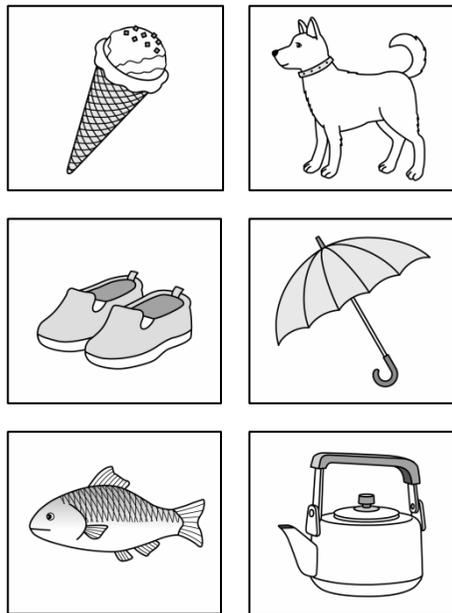


伝え合う場で、文を聞き、話すことが
使える文法につながって行く

練習例



役割交替



A

にとって

の文型の練習

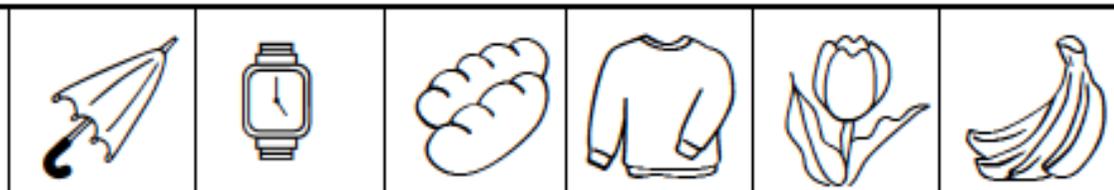
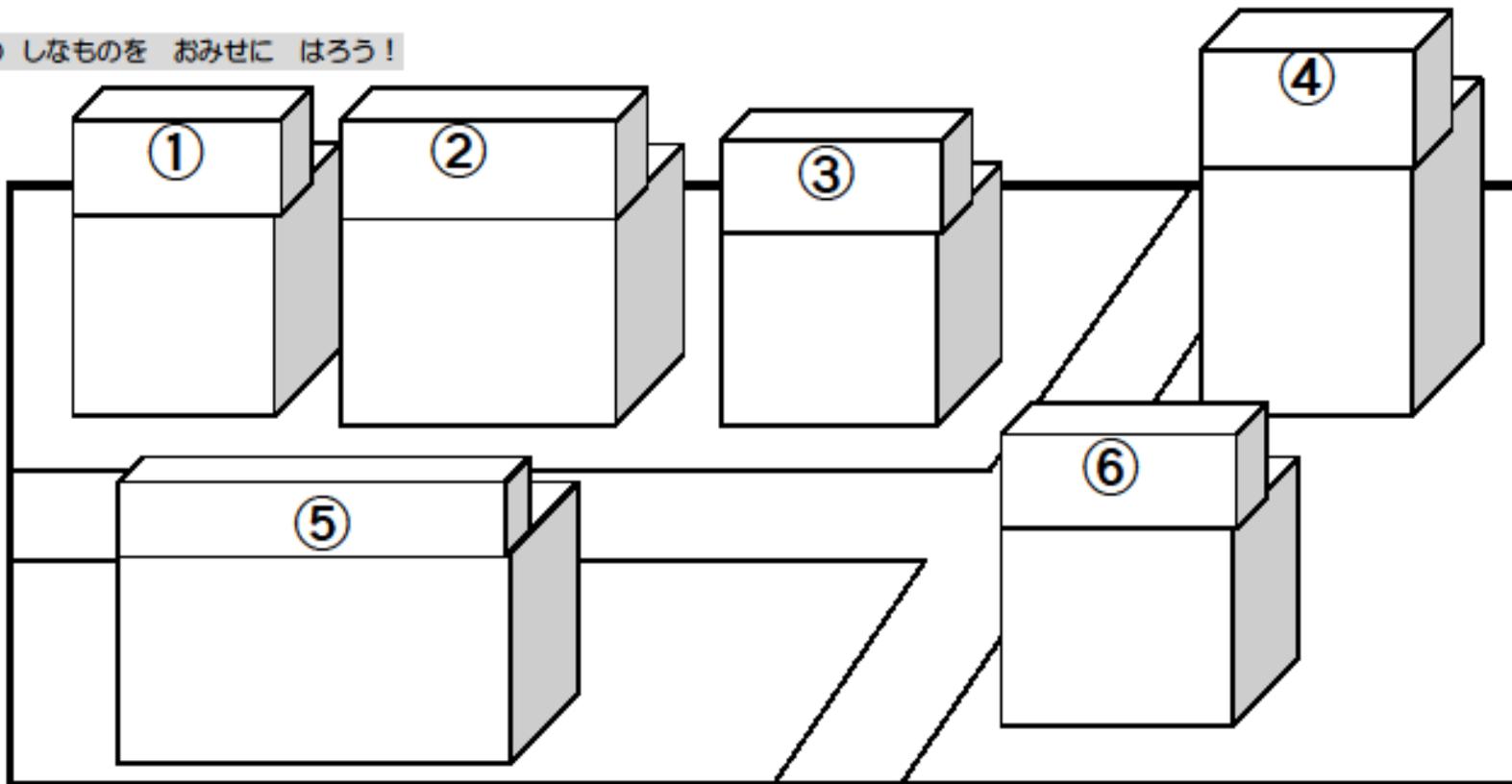
教材例

「つたえる練習」シリーズ

つたえるれんしゅう⑪ おみせやさん

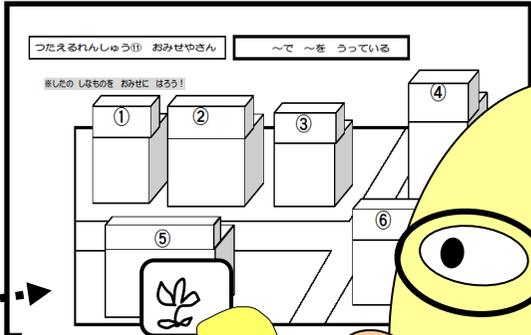
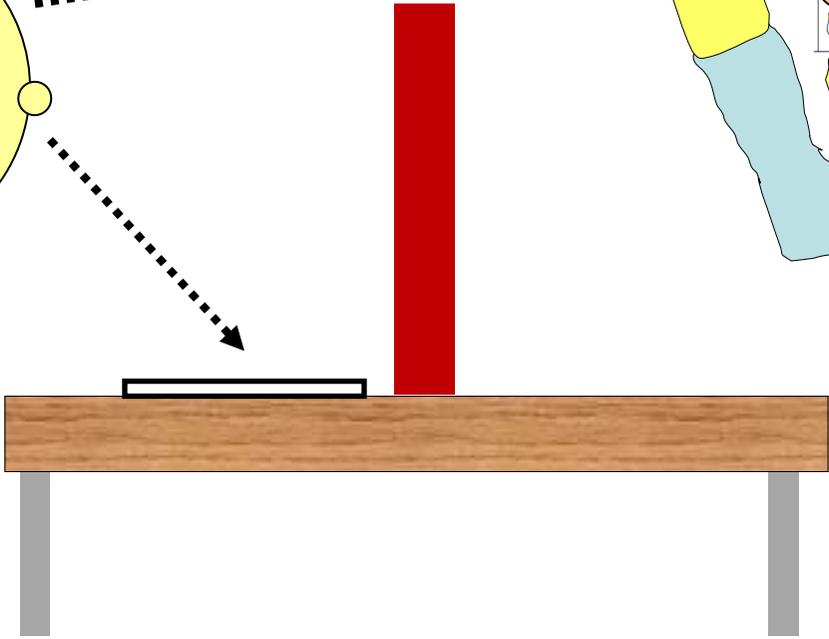
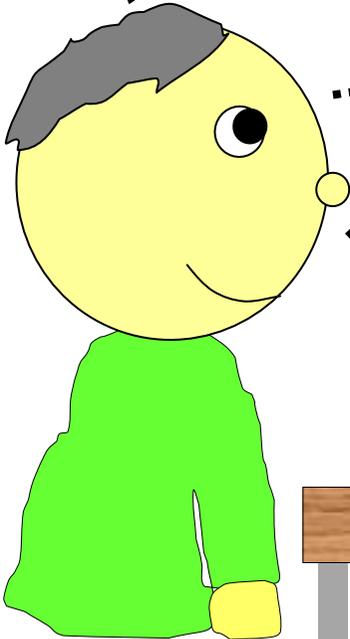
□で□をうっている

※したの しなものを おみせに はろう!

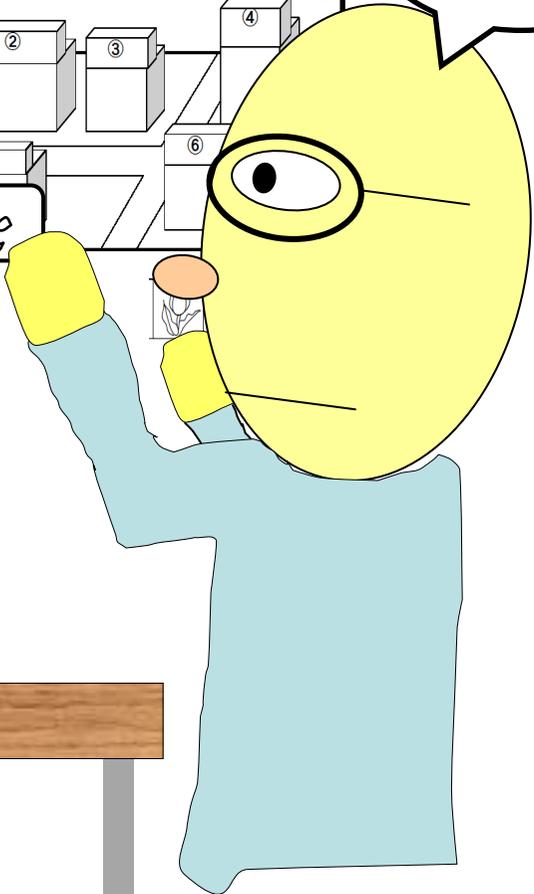


練習場面

5で、おはなを
うっている



こう？



「つたえる練習」のポイント

★コミュニケーション・ギャップの設定

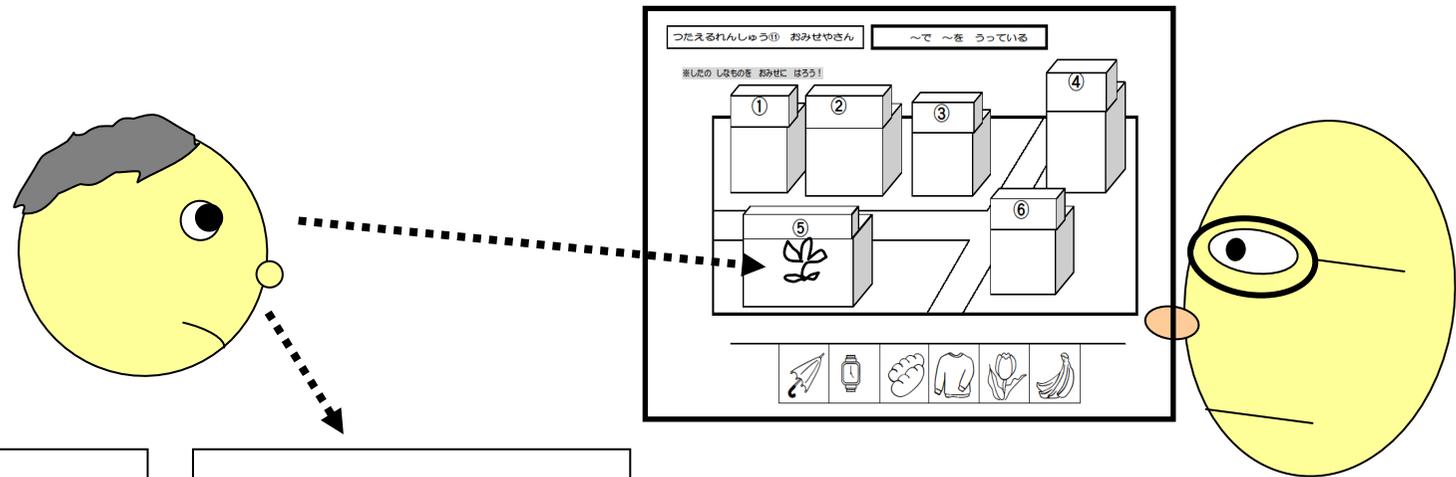
状況がわからない相手に
何とか伝えなければならない



伝達意欲の活性化

「つたえる練習」のポイント

★ワーキング・メモリーの活性化



状況作成

→ 状況確認

→ 文型確認

→ 文を言う

→ 相手の状況確認

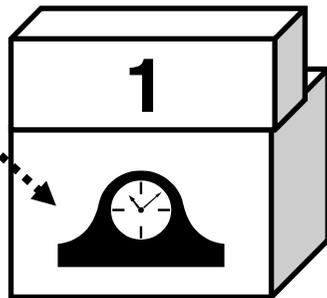
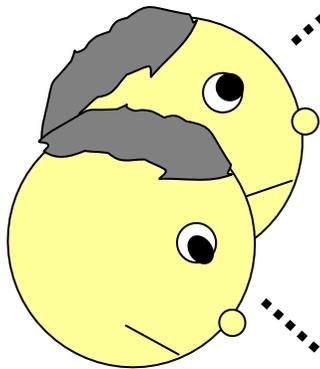
様々なことを処理しながら文を言う

「つたえる練習」のポイント

★文型のパターン化練習

□ で □ を うっている

1 で・・・とけいを・・・うっている



! 文型・助詞への
注目を高める

土台となる
認知能力

土台となる
言語能力

習得を促す
意欲・動機

土台となる
言語能力

単語の習得

文の材料となる、名詞や
動詞・形容詞の習得が必要



男の子が くつを はく

理解・発語するには・・・

男の子

くつ

はく

名詞

動詞



単語の
習得が
必要

では

単語が習得されていれば
それをつなげて文になるか？



文に発展するかどうか、は
単語がどのように習得されているか
にかかっている

つるつることばから

ぎざぎざことばへ

つるつることば

かみ

に

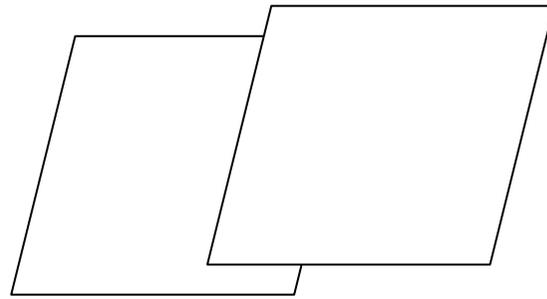
ぎざぎざことば

かみ

に

つるつることば とは？

かみ



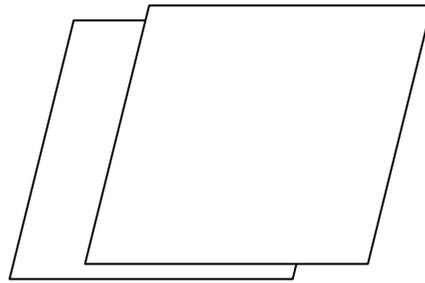
ラベル的名称

名前は知っているが
「かみ」の知識は乏しい

→ 単語にとどまり、文にならない

ぎざぎざのことばとは？

かみ



さまざまな、「かみ」の知識がある

→ さまざまな文に発展して行く

助詞とのつながりで言えば・・

助詞は、ものの役割を規定する

が 動作主や主題を表す

を 動作の対象を表す

で 場所や手段を表す

に 方向や地点を表す

つまり

つるつることば は、

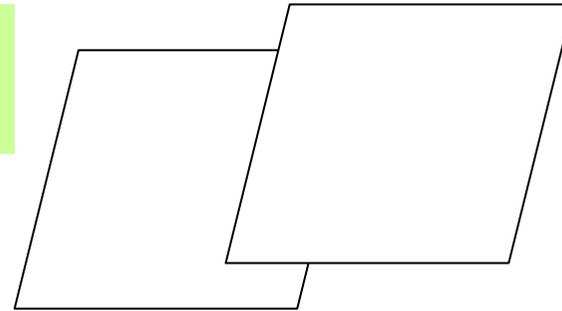
その名称が指すものの、
さまざまな役割理解がない



助詞や動詞が連結しにくい

でも、**ぎざぎざことば** なら..

「かみ」の知識がある



- 絵や字をかく
- 切ったり 貼ったりする
- 何かを包む

● 絵や字を書く



かみに書く

地点

● 切ったり
貼ったりする



かみを切る

動作の対象

● 何かを包む



かみで包む

手段

さまざまな助詞や動詞と連結して行く

つまり **ぎざぎざことば** になる とは・・・

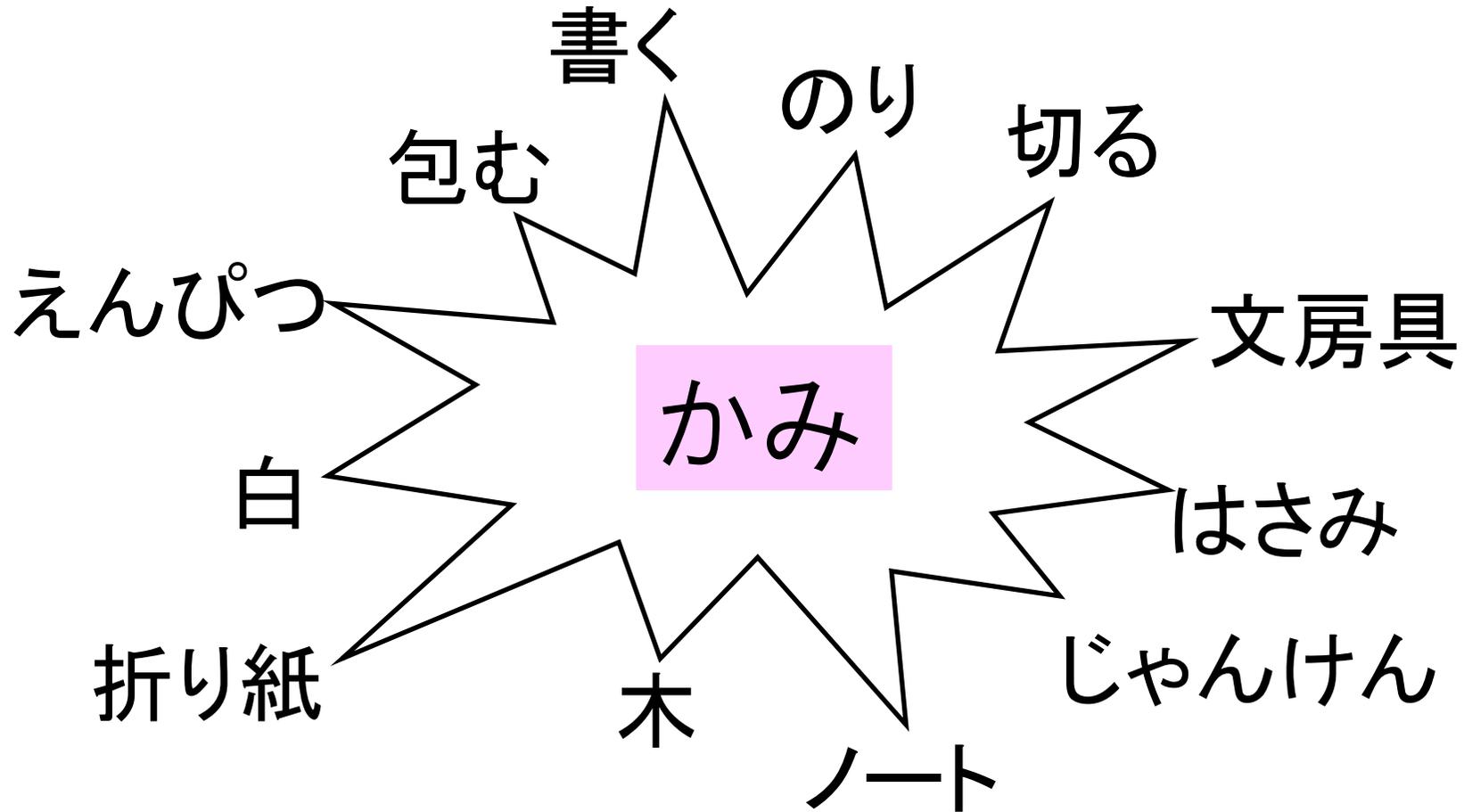
ひとつひとつのことばの理解が
広く、細かく、深く、正確になること



文法を用意する

文法と語彙は、
切り離して考えることはできない

ぎざぎざことば



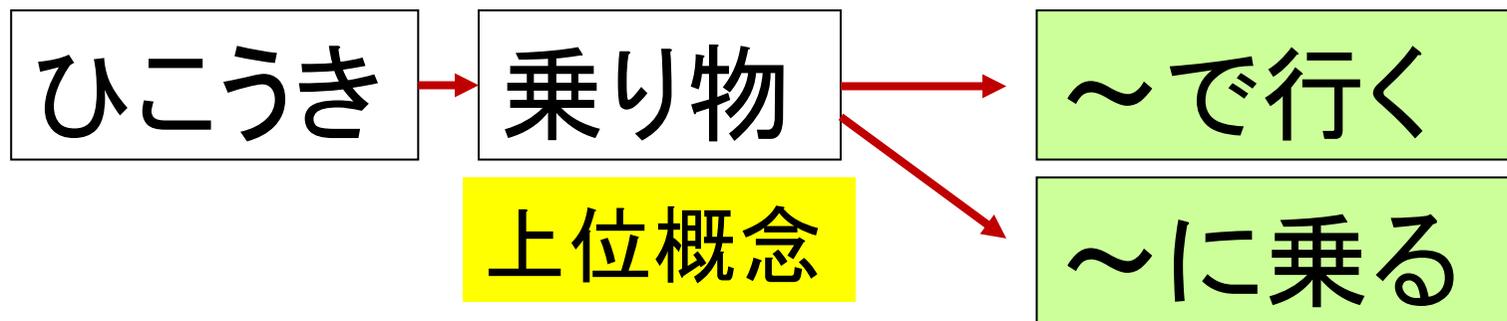
ことばのネットワークの形成

ぎざぎざことばを育てるためには・・・

●モノや事柄に対する経験を増やす

コップ 水を飲む、お店で買う、割れる・・・

●特徴や定義などについての概念化



● 事物の連想能力や
関係づけの力を育てる

はさみ

かみ

切る

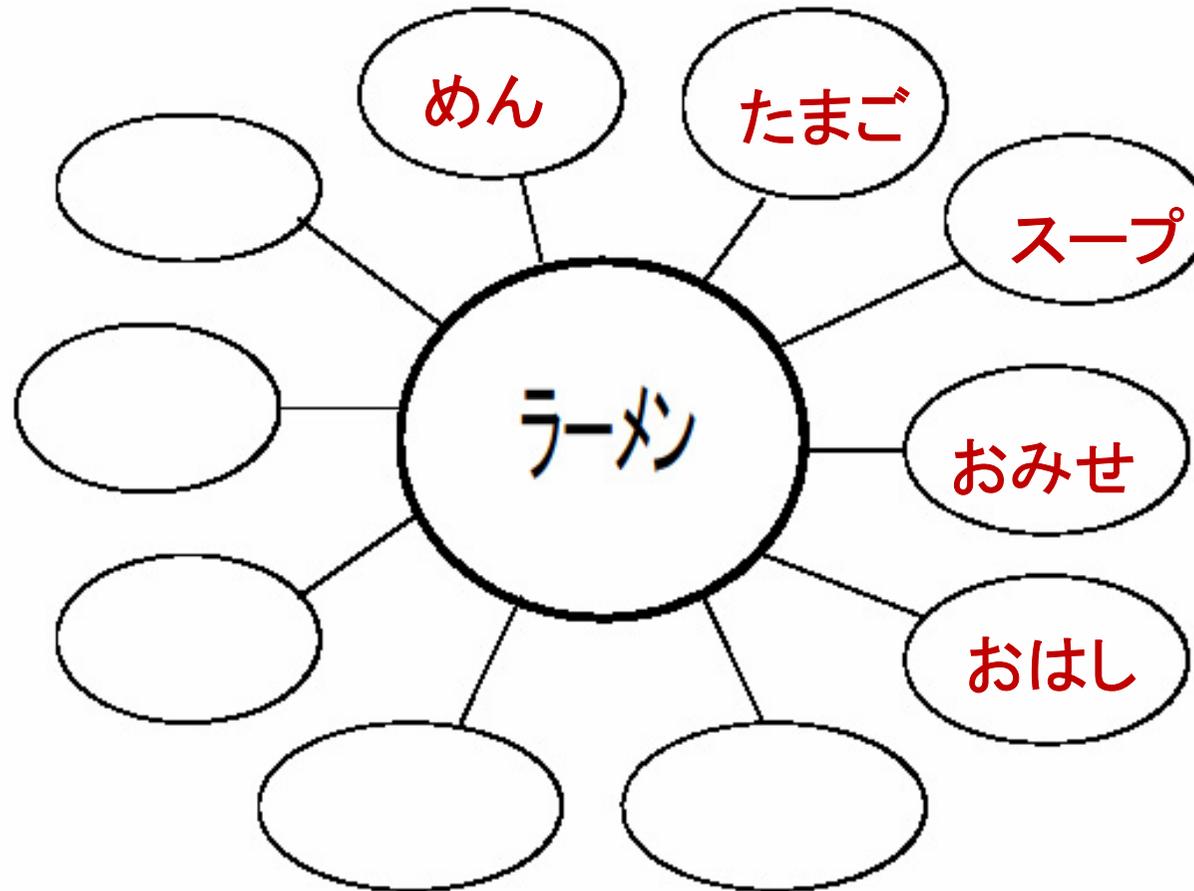
それぞれのことばの
役割が、文を導く

はさみで紙を切る

学習課題

* 放射的連想課題

かんけいのあることばを かんがえよう



* 関連づけ課題

二つのことばで文を作ろう

りんご
ほうちょう

(ほうちょうを りんごで 切る)

! 動詞の想起と妥当性を重視

動詞の適切さが文法を導く

二つのことばで文を作ろう

りんご

りんごを食べる

りんごを切る

りんごで作る

りんごがなる

ほうちょう

ほうちょうを買う

ほうちょうを使う

ほうちょうで切る

ほうちょうが並ぶ



共通の動詞「切る」を選択

りんご

ほうちょう

りんごを切る

ほうちょうで切る

動作の対象

手段

りんごを ほうちょうで 切る

！ 動詞を正しく選んだ時点で
二つの言葉の関係性が把握されている

そして..

関係性の把握が



助詞の習得を導く

言葉と言葉の関係性の把握

名詞と動詞

ごはん

食べる

対象

を

名詞と名詞と動詞

おはし

ごはん

食べる

手段

対象

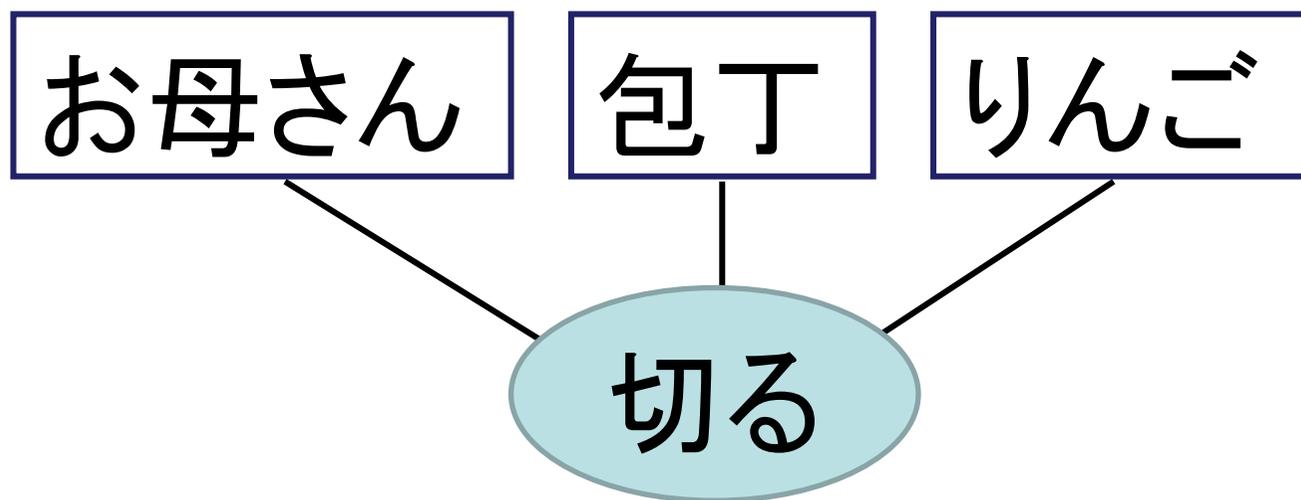
で

を

標識となる
助詞

動詞の重要性

動詞が言葉と言葉の関係性の要



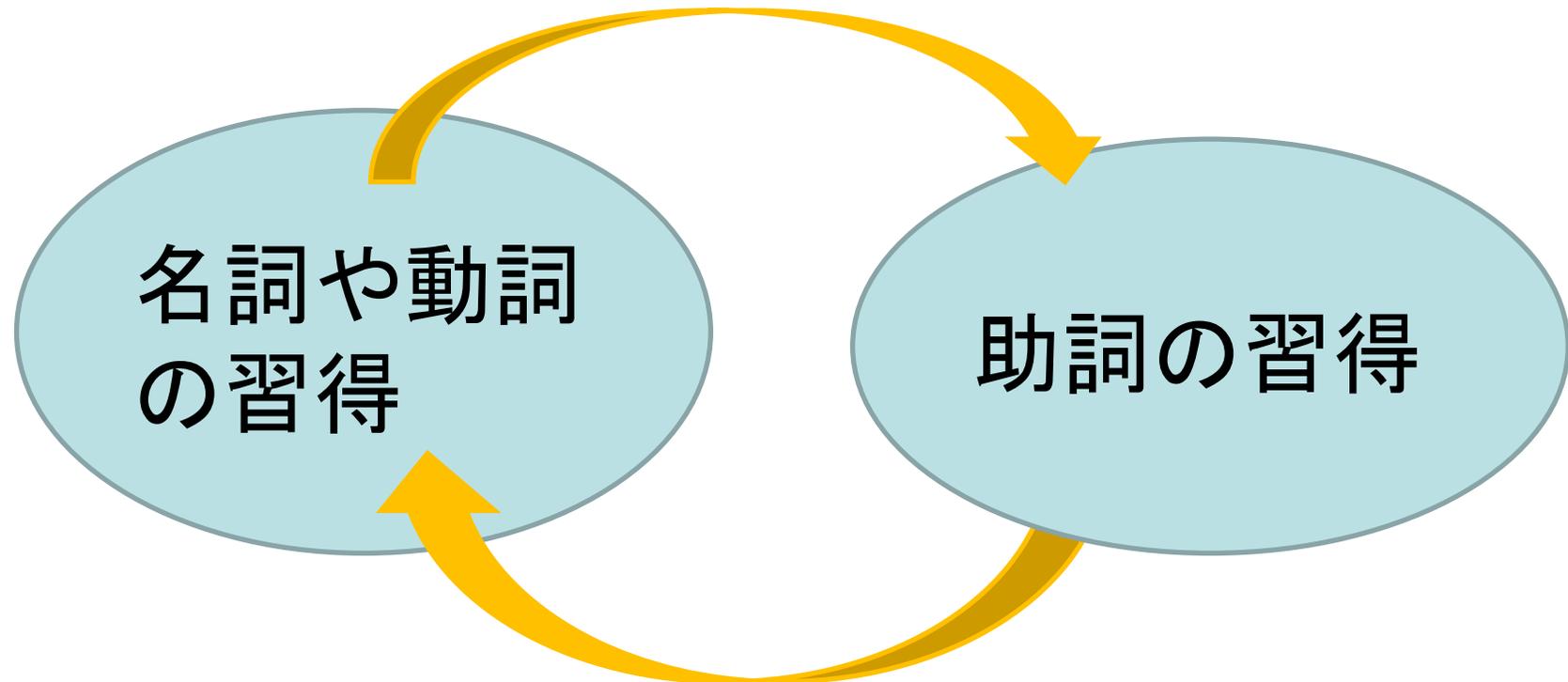
動詞の拡大



文と文法を導く

そして..

単語と助詞は、互いに補い合いながら、ことばを発達を支える



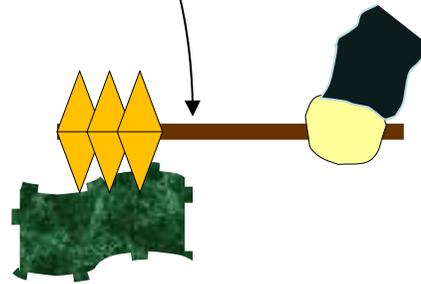
助詞が語彙を育てる

コンロギで切る

→ コンロギは、道具だろう・・・

クヌアに入れる

シナフを飲む



未知の語を事物と同定する

未知の語をイメージする

気づきから知識へ

「文法を学ばせる」ということ

文法は

本来は学ばなくてもいいもの

ふつうは、無意識に

耳にすることばに、注目し、また話している人の心に共感して、文法が育ってゆく

でも、発達に障害のある子どもは

その注目や共感が難しい

だから

本来、無意識に取り入れるものを
意識にのぼらせる必要がある

意識化

意識化の段階

気づき



比較

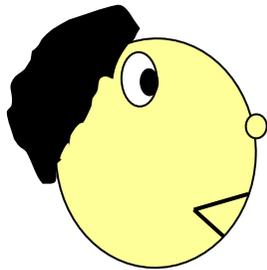


知識化

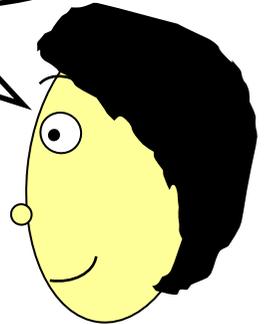
気づき

文法の内容を意識する

「**が**」があるな..



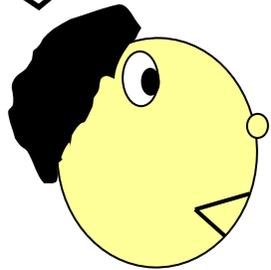
くるまがはしってる



比較

文法の違いに気づく

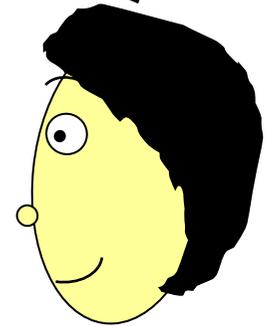
いすをすわった



!

「を」じゃなくて
「に」っていった

いすにすわったの
ね

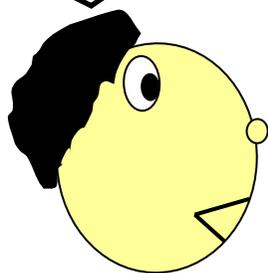


言い直し

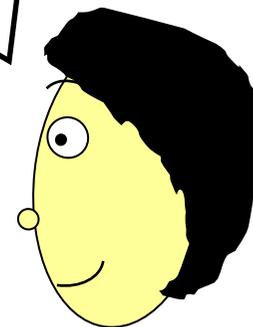
知識化

文法を解釈・説明できる

それじゃあ、
リンゴが食べる
ことになっちゃうよ



パパを
リンゴが食べる



それぞれの段階に応じた
課題や学習目的が必要

助詞だったら

気づき

何かあるよ！ → が

比較

色々違うよ！ → が・で・に・を

知識化

説明して！ → 「が」は、やる人

教材例

100枚プリント

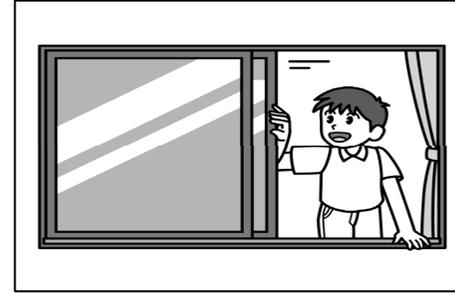
がでにを練習ワーク

- 助詞への気づき・知識化を促す

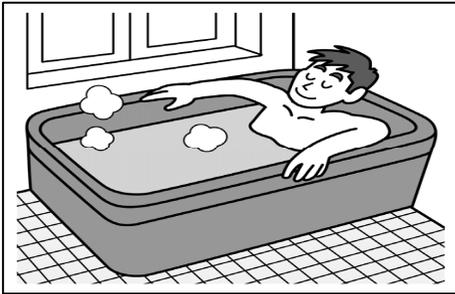
助詞発見課題



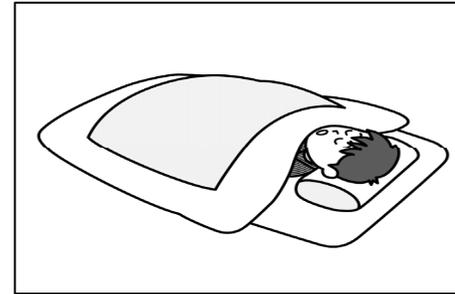
はさみ^できる



まどを あける



おふろに はいる

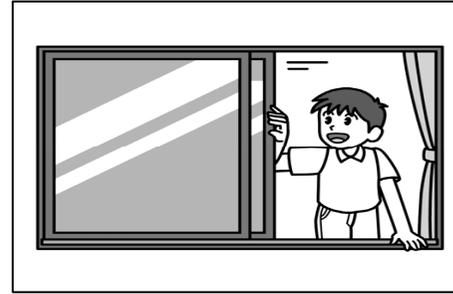


おとこのこが ねる

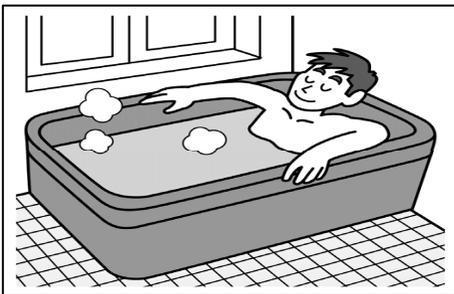
助詞穴埋め課題



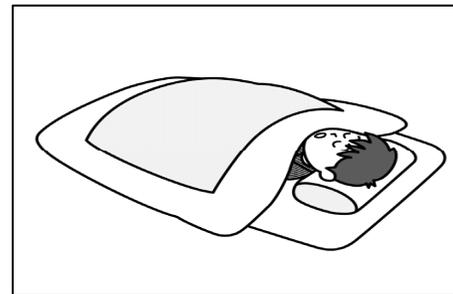
はさみ()きる



まど()あける



おふろ()はいる



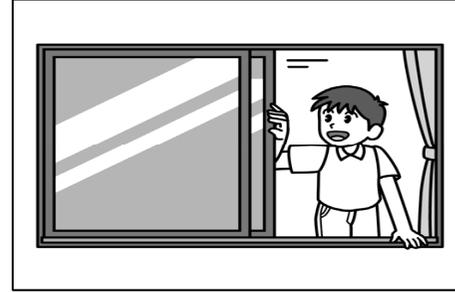
おとこのこ()ねる

が
で
に
を

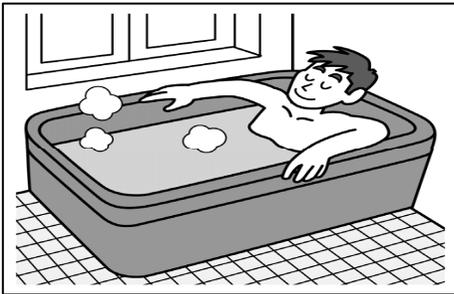
助詞訂正課題



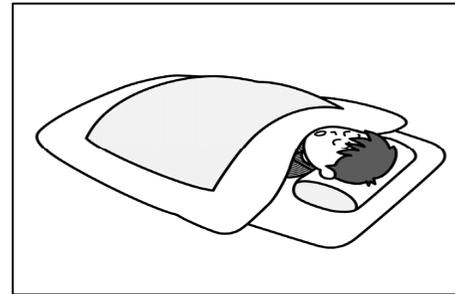
はさみ(が)きる



まど(に)あける



おふろ(を)はいる



おとこのこ(で)ねる

が
で
に
を

状況絵なし助詞：助詞穴埋め課題

はさみ きる

まど あける

おふろ はいる

おとこのこが ねる

が

で

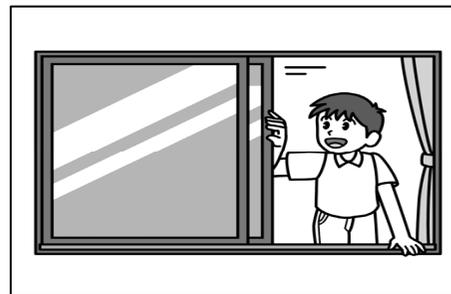
に

を

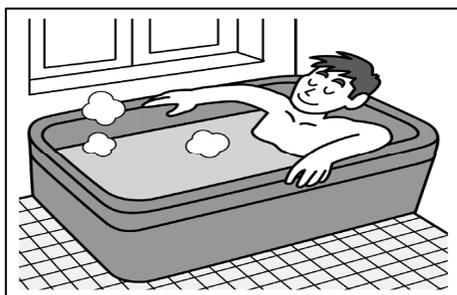
選択肢なし: 助詞穴埋め課題



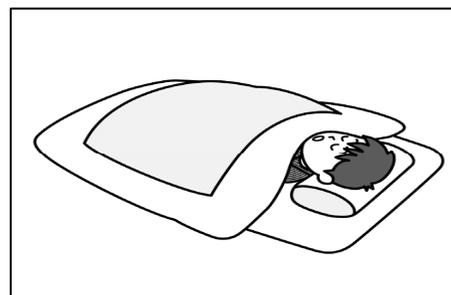
はさみ()きる



まど()あける



おふろ()はいる



おとこのこ()ねる

がでにを練習ワークの目的

★助詞を覚えさせることではない

文法は規則



暗記はできない



* 丸覚えするなら連語
「ミルクちょうだい」

目的は

助詞の意識化



自然習得を促す

がでにを練習ワーク

■ 正解できない子どものパターン

* 問題の文に対して

① 会話でも、助詞なしor間違えている

② 会話では、正しく使えている

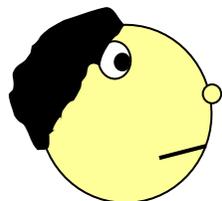


それぞれの段階に対応した学習

① 会話でも、助詞なし or 間違えている

● 助詞の存在への気づきを促す

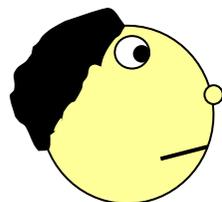
なんかある！



はさみ(で)きる

● 正誤の比較認識を促す

ちがうのか！

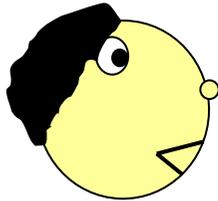


はさみ(を)きる

② 会話では、正しく使えている

会話では

はさみ**で**きる



問題では

はさみ**(を)**きる



自分の発話に対する洞察の乏しさ



日常使えている表現を、問題でも再現できるようにする

実用できている助詞を、なぜ学習でも
正解できるようにする必要があるのか



より高度な文を理解・表現していくために
自分のことばに対する洞察が必要

例：可逆事態：倒語文の理解

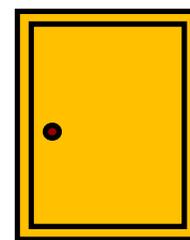
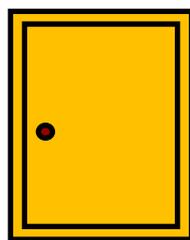
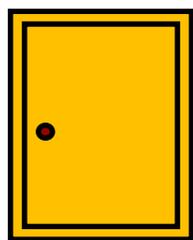


女の子を男の子がたたく

ドアを叩く

効果的な学習のためには・・・

能力が用意された部屋のドアを叩く



能力を育てるためには、まず能力を引き出すこと

能力を引き出すとは・・・



潜在的にできることを、
学習の課題の中で、発揮させる



* 能力に形を与える

子どもが自身の能力に、気づき、

能力が活性化される



能力が展開して行く

それぞれの日本語

文法は、さまざまな能力を基盤として、
習得されるもの



能力に制限がある発達障害の子どもに
とって、完全な文法の習得は難しい



子どもひとりひとりが、他の人との関わりの中
で、「**それぞれの日本語**」を持つ、または
持っている、という視点も必要では。

小泉八雲（ハーン）とセツ



ことばは共同して
作り上げるもの

【参考・引用図書】

- 「こどもの認知発達」新曜社
- 「外国語学習の条件」 岩波新書
- 「第2言語習得と言語教育」 くろしお出版
- 「ことばをつくる」 慶応義塾大学出版
- 「英語のメンタルレキシコン」 松柏社
- 「日本語の文法」 ひつじ書房
- 「はじめての日本語教育」 アスク講談社
- 「心の生得性」 共立出版
- 「子どもたちの言語獲得」 大修館書店
- 「ことばの発達と障害」 大修館書店
- 「発達と学習」 北大路書房
- 「日本語教師のために応用認知言語学」 凡人社
- 「英語語彙指導ハンドブック」 大修館書店
- 「ことばの習得」 くろしお出版会



【今回、お話ししたかったこと】

- 毎日のコミュニケーションでの援助を大切に
- 学習場面でのコミュニケーションを活用する
- 文を認識するための「聞く力」が重要
- 構造を把握するための「パターン化能力」が重要
- 意欲・動機の伴った「伝え合う場」が必要
- 語彙と文法は切り離せない。語彙が文法を導く
- 段階に応じて、文法の意識化を促す
- 高度な文法学習のためには、知識化が必要
- 能力を育てるためには、まず能力を引き出す
- 正規な日本語で測らず、協働して日本語を作る